万象假名箋

ホ 2
397

万葉仮名遣序

才藻川瀬にあらざれど今の事知らざるしる智
なる仲舒にあらざれども古のを知る無婦る
事らしある月梅宮をもん梓にゑらひのほる
ものあわ華ハ浅香山式百敷根に似くまぶハ
筑波山の何首尾に転せわ陸月に桜枝
まきに十尋孫に父竹何を用ひんとる
の室階となれわ人あり比名残とふ事

又何といふものを汲むもしは草の芽
さんぜんとるや総は一葉乃下露の流あり。
今この延葉要事とは万葉の花る縁の
言葉ひろげて万葉ぶ心のつゞひと伴し
なぞ読おもしきにしあらわや容抜きつぶ読べ
こふべき網もなしたは闇草のいふしきにを
ひらいてけしよ。

御溝水頭白梅園
鷺水謹書

萬葉假名遺　目録

濫觴(ランシヤウ)　大篆(タイテン)小篆(シヤウテン)の起(オコリ)
八分字(ハツフンジ) 并 隷書(レイシヨ)楷書(カイシヨ)といふ事
真行草(シンギヤウサウ)の弁(ベン)　真名仮名(マナカナ)といふ事
平仮名(ヒラカナ)といふ事　いろは乃始(ハジマリ)
正字(シヤウジ)いろは 并 古文字(コモンジ)　真行草(シンギヤウサウ)
七ツ伊呂波(ナナツイロハ)の誤(アヤマリ)　同いろは字(ジ)の注(チウ)

同異説
片仮名の字義
ン〆井片寸の注
井下に在いのゑ
同井下のぬ
をの仮名たかひ
おのかな遣
ほのかなつかひ

仮名の字体
同イロハ正字
いの仮名遣　三体お不付
ぬのかなつかひ
ひれ仮名遣
同中下のと
同ク井下乃お
江のかな遣

同井下れに
同中下のゑ
わのかなつかひ
うれ仮名遣
むのかなつかひ
うとぬの違
むとゑの通
ふとゑ乃通

ゑあんかなはつかひ
への仮名遣
はのかれつかひ
ふ乃かなつかひ
うとむの別
むとぬの通
むとふ乃通
へとめの通

めに字る へノ字
みやまふひ
みをといふ訓
志の仮名遣
をのかなひ
いゆの仮名
はほの仮名
とたの仮名

むに海のふ姆の字
とと字る姆
みをむといふ訓
ぢの仮名つかひ
づのかなつかひ
ろらの仮名
へひの仮名
とうの仮名

かこの仮名
もアヤの仮名
まみ孫の仮名
ちちの仮名

おえの仮名
そさの仮名
てふの仮名
真名仮名 いろは

以上六十七ヶ条

仮名遣詞数惣計五千八百三十一言

同引用書籍

耕雲本假名遣　行阿假名遣
親行抄出　基俊撰目抄
行阿抄　了俊一葉集
萬葉集　同新撰
同指穂抄　日本記
神代巻　同合解
中臣祓　源氏物語

同目案　岷江入楚
湖月抄　續源語
古今集　狭衣
拾遺愚草　金葉集
散木集　筆の遊
新撰六帖　喜撰式
八雲御抄　真名伊勢物語
花鳥餘情　蔵玉集

續日本紀
風土記
延喜式
舊事古事記
新猿楽記
大鏡
有職袖中抄
有職問答
紫家抄
和歌呉竹集
花屋抄
名目抄
三賀抄
河海抄
野槌
順和名集

藻塩草
三代実録
菅家文草
清輔袋草紙
古語拾遺
下学集
本草綱目
千金方
白氏文集
文選
春秋左氏伝
史記評林
論語
孟子
詩経
離騒

莊子　爾雅
韓文　事文類聚
円機活法　書史會要
玄抄類摘　法書要録
法帖通釈　六書正偽
書苑　草字要領
草法彙函　草訣百韻
翰林玉露　令義解

字彙　五車韻瑞
古今韻會　韻會小補
説文　多識編
博物志　合記集
和玉篇　円悟碧巌集
節用集　悉曇字記
古文前後集　楚辞全書
称名記録　万載抄

肖柏役　宗碩役
紹巴役　宗長役
細川幽斎　耳底記
中院殿役　流木
昌叱役　貞徳役
家隆役　立圃

右乃引字ハ悪用紀詞の下にいたるく
一字つゝ半濁し結り且ハ縁北派名を

給ふ也りえ色の詞ハ緒よありと細ん
乃人ハ見也ともしれんとて相紫
一言毎白操ちらひて書いたしても
多々結とさのみふくうしくハ須さん
豊しるの操用せんおほさるのより
とるに出し結り見んも人ころなはる結

仮名遣を見る法

一世に仮名ちかひの板行おほしといへとも皆そ
定家卿と云書おほくは歌よみに雁書れ
附として習ふに紀せりものゝみのくその元
とする仮名也といふに由而盤鶴作いとも頗
少て歌に用ふ也今此書ハあらゆる紫類
らはりて挿て弘法大師いろはのうに
及ひ且ハ古今字類の変化也仮名

則まこと則仮名ちかふ此故紙しめ
しく庸才筆授の感をとゝのへしむ
一いろはは四十七音の内にヘノ字つくるをもて
しれ祇としれ得文をもふくみして
字類ともに家によりて祚は其之字儀
能家乃歌ことを合せて其理を引ル
一古来七つは呂波也といふ地あり古文字の
いろはと出せり 弖テノ字 宇ウノ字 等る

附ハ字法とまうして仮名と字形と大
きに異なり今せ手いろは四字に古文と
さへまじへて七ハ呂波の誤と云へし
一此外に通例の仮名へハ省字ハ草書
の如く仮名ことく集して一字を成ス
一片仮名といふあり并せ内より出くれ
字義の分別しられあり二メ氏片
寸等なり今せ書その字義を歟リ

一いぬひとれは筆乃仮名つかひハ皆耕も
なかまちかひ紀加ふる亦仮名の字体
をいへく傍ふ波を
一うトむノ別あり 鱣ウナキムナキ うトぬノ違あり
為掲むヌハタニウハタニ 筆乃紀七ツ又ハめトもとゆる
ヘノ字 並ナヘニトナメニト点メ読 むとおりふ梅 葬ハウフんハウムル読点
筆の紀六ツ合して十二ケ条ともつく
よみくせの段りとし

一志ちもんの字濁る時ハ草ニ混雜して
假名と成やすき物なれハ今これをわけむ
爲ニ多く各同とし
いとゆと稀とかとの部合ひく時ハ此ゝ等の
區ちもこ今ゝ悉り別して十三いろはに
なれるへく左に係を
一萬葉集のより讀書并古今の撰とを
勘りかく二千四百五云とれ余準之

一應永の舊本千二百八十云今撰假名遣
的教字及百五撰一云ととくし及千八百
三十一云あり古錦の部く諸史百家の
旨を考へて世く出ん挙乃發明と
あくせ待り然これ要く抱の哉へき
三とりこかいあらん案ハ準して知へし

万葉假名遣

濫觴

一むかし黄帝乃臣に沮誦皇頡 一名蒼頡とも云也 いふ人。鳥れし跡をみて始て文字の代制し結縄の信にかへしより 太古文字なき縄をむすひて約とせしなり 権輿しく古文の法傳る。そのゝち年ひさしく。周乃宣王の大史。籀といふ人大篆を作り。 言掖郭稿に籀文といひく いそく籀文ハ周の大史作る

而なり古文大篆とおもし是をもつて諸人名をなさしむく総じて
これを籀文とも云又史籀ハ周の史官なりしく
学士壁に字を蔵る是孔氏の壁中古文と称とこ
とれを郢都定ヶ六書の二ツに出つる奇字なるにく
それ石古文ありしく字に及もと陳蒼李斯か
小篆是とくそらんととれり史籀ハ籀文の祖なし
かくありまうるハ則大篆とらんすこれよりさきに
に紀せるなりかくいへり又法書要録に云周の史籀
ハ宣王の時史官なり書を以て名とれ蒼頡か古文
を師とし損もと是をくさ云雲跡湮滅して是を去
かいうしかふ今に傳る所ハ継ぎに蟹篆籀するのを
この故に古人の是形を増損しこれを称めんと
をとくされたこち字損ありひハ同しく或ハ
是れあり人云し史篆とし史字とれ作ぶ篆
文の楷字とれと云を字けは
字をもつて作りし傳り古文に習しよう。

小篆（テン）秦の李斯大篆に於いてなり略く省以
小篆と作る是てく蒼頡七篇と共にしさ
る史法書要録に八分（ハツフ）秦の羽人上谷の王次仲か作る所
法に須せり　定和字緒に云東漢上谷の王
次仲隷の八分を去りく二分を用ひ小篆の二分を去
て八分を用ひてるか故に八分字といふとあり秋下に委
隷書（レイシヨ）字史に云要録に云く程邈字ハ元岑雲陽
て雲陽の獄によりて三年字書に思ひをさる事十
年篆を変じて隷とれ三千字を得る是れを
より見れの篆を隷とゆえして奏す史とれを用ひり
楷書（カイシヨ）書施の隷にようる隷とも云せ其字省文
宜しく楷の名分しかせり法書要録の名
に知さうの時は隷と楷との字
あるに則ちなり是に限し篆乃名あり。今
の俗楷字と呼に三川の名をもつてきと。

一にいはく志(シン)ハ実なり浮を揺しとしと訓して
志と云人ハ気の衣冠と云しふるさゆゑに書に縮
発る所にしく[illegible]くまた目にも生非乃
然目に見の已ふるにとらふるにおいしけれは心の徳
かるくなる[illegible]ハ化なり下の凡に於ゐて気[illegible]
みるく云気中なりなるくの字の観矩制度と
あへてこゝにすゝる　二にいはく　紀(キヤウ)数云に補にいはく
これと志といふ　紀ハ光の継なり
鄭氏かいはく光光を[illegible]たれ光太乃
光たるに[illegible]に学へ[illegible]ゆくとあり紀ハ人の紀くち
にさとつていはく友人の称衣と見えしくしまを云るく
しく[illegible]よ彼をるか礼服冠蓋の字ハしきと
罩しゝるに　三にいはく　箏(ソウ)は中(?)を上(カミ)志(シン)と
比しる也
紀(キヤウ)の二川と。唐(トウ)には楷(カナ)といへつて。鍼中(ナカニツク)箏(ソウ)よ

もと箏(ソウ)なりしるかくちかゝらく人
走陳(ハシルトキ)。国(井キ)義と書しけるに事あり
をさするにさいふ。又云箏(ソウ)ハ草(クサ)く。草(クサ)乃
始(ハジメ)て生(セウ)ずるかくち。其(キ)族(ソク)中にあるとや
ふ。それやうかふしく。いはく枝(シ)葉(エウ)
の体(タイ)を説不事に書とふとをいへり
梵(ボン)家(ワカ)の般(テウ)よ仮名(カンナ)とふ[illegible]のありて。
梵(オン)天竺漢(カン)の言語(ゴンゴ)を訳(ヤク)し
とらふ[illegible]沢ハ述之　夫友乃

云を傳へて之を告る。礼記王制にいはく東
狄ハ狄といひ東夷ハ寄といひ南蠻ハ象といひ西戎
ハ狄鞮といひ又周家ハ是を總て譯といふ今の
俗これを通士といふと注せり又四の句とかきて
要をとるに斯く般の經史の旨趣を測る乃
云とゝくすると云く
階梯とはなるべし。神武乃帝王代より
十六代應神天皇の紀まではハ。文字
の形ありといへども。彼蒼頡か古文
史籒か大篆に類しく。法鵞蝌斗に
ならん神代の文字なしと。總て

傳へて紮書に雕る。第七代孝靈天
皇十三年に。天竺の文字をしめて
あるなりとかやといへども。是又附會するなり
熟せずして其不測靈明とするにや。
因後世に臨するをとなくなりし因緣
をしる故に。文武を修習しく
汲練とつかんとする人もなく。流は徒に
帝王代々の倉庫に。蠧魚の食と

やまとにほるのごとく。應神天皇の御
宇十六年に。百済國乃王仁。古史經
傳を携へ吾が朝に入貢しく。もろ
く漢諸文字おの理とを口授せしむ
志けれとも。夷狄の言語以てなだ
綴律系乃政を記とへとれあらしれ
ちて。暗誦すれ人これを指おかし
に。第廿七代継躰天王乃治天まく

を。終に和漢通貢して漢家の史傳
学校を開く。呉域西蛮乃道を洞
徹するものと為。天児屋根命十九世
の孫。常磐大連なる人最和漢の
才に富。楷書をもて長く万世の今
に珍すべきことを考。始て中臣の諱
諱諱これはもとのことヽ又のと ことなりけりくは彼役子あり神代
の文字三百二十余字。同十七韻と

勘へし。悉く漢字の声へと假り傚に
誌しのこしよりて。真仮名乃號あり
漢字ハ声のミ漢呉頼音清濁甚多くの別
ありく訓よりつきおもし　和語とかく粗とするふ
漢字の音声をあつかふく　漢字一字にてことさき
しむ此為に真字乃仮名にて　和語の仮名乃
たゝよりは万葉仮名と吉田家の清濁なりとも
又云和語にてふるに漢字ハ声と仮といふに
あやまらく学　韻学の人乃学力つき而とかへ
また家々経の風俗漢家かん家々宴にあつ
にもし是回入貴せに熟字のをおむへきなま
さは古家々皇別の人何とも等へいふかむしく
歴代の国史をこアヘる事をさろん今まさ漢語
をあつかうかへく自用のさとしとしるゝ

彼連の神代乃文字四十七句に泥しく漢字の制
ありしより精興あり去られるも此声ありく字
の究つきかく音便いふ人とも得らるおりそのまゝ
これ乃漢字の字義によりて太書韻ふもとより或
ふミ字義をも声にかゝりぬるの怪今あくと称
支の人かん傍へ知ふへく去ふも句字の人かんまうへ
ら撲り知つきふふあしれ又支へしまるふふをあら
されとも和語の秘は文むけ一るにそこよりて得るを
うや去ふれ只漢文ふるも人也得り
謬をとつりく讃遅て一旧生流署志しようり
洛陽乃風俗。大まは此遊と崇め。好事と
いそれ家毎。日夜翫ひ乙と執をと云
ク稽らも代。中華英雄のまにのを

ありて遠く別縣に溢るゝの切なる
ゆへに。人皇四十四代元正帝の時。養老
四年に。一品舎人親王勅を奉る。
日本紀を撰み給ふに及ぶ。全部と
真名假名まじりて綴く。先哲の大功に
たもけすんはあるへし。群臣いよく此道あり
むつかしく。漢書の文義を解しかねる
ところ偏に真名假名を略く。本朝通

俗の字ある事。彼顔が家庭乃李
字に移りて大子孔丘の閏色といへり
と思ふによし。
此史記要に孔子四科とあり捨ひ篇文を潤飾せられ
まうす是正しく手業に易の正
満り
達するか為に。徳は海よりあつき。録家
書は漢土に入る。さしも羅太經之鶴林
玉露をもて。本朝の俗安心法との
せく。硯と松鑑利。筆と分直と

す。又唐の張九成か書史会要にも。
山と夜渡と書す。月と朝暗とかく類
然の假名とよめり。讖ふ緯の隆盛
乃化にありしもんて。如何を末代ゟ改
るへきと依らん。係られたるのてしまて。
杞いまる蝌蚪 龍章ふ象勢の篆形ふ
よへの風ありし。字ゟ称を二画書に指と
いふるを訓と正字 正字に二義あり通正字
しと云 別正字なとゝも云通正字

といふハ花月ありけり別正字なといふ偏旁と云にかく
かくし又にしと云義なと云へくと此といふ類をさんと
假字 又二義あり全假字半假字なり川津月
半假字 全見ものと全假字なし見るもの杜津羽と
字をまなぶ 義法又二義あり字音をまなひを
[illegible]と全義とし訓一二又称とよりいつき
花月とこそ月とらんかくさいてると[illegible]
[illegible]の[illegible]あり假名のつくりにあめくも
[illegible]ものもいらしも色し口傳とて
いふ又法十称をありける味のるまあり。
こゝもとよ下つる高野乃雪の法恵
果徳果面闍梨と号す経山の傳法
傳々別大師乃伝より壇の海解

ありて吾ヶ朝の假名といふもの。梵字此聲とありてこそ。躰と浮字に備はる。法小神列の德道慧ともに叶はれとも上皇詔の令誥より。下民なん日用をともなけ。然も一音くしく多気をいふみさとくは三の字にいふあれかの縁浮し千変万化の功業をなし和字の二十一字の内に

浪々経とし震き。曠劫に至りて天地鬼神ともに感せしむるの理。吾が真言總持呪の。よく恒沙の仏かされ功徳せられ。大千世界の塵障を招き。皆悉摧滅の様あるに。発菩提よりとしく。始て大日経灌頂経等に。字輪本字母等に求めて。いろはの四十七字に着得なし。是

と悉曇の摩多體文あるにおなじく。
表八十韻乃長歌りおなしく内外八
無常迅速なんどいふ後生論つ
らん小子等がおもしろしとの給ひし
を。梓化の雪那他子部ひしく。王佛
一致乃法味あるに懐しく。佐理道風
行成おもし。能書小名ある家に写に
時。草の草とゝ書せられしぞ。

そうの停泥の濘濁に溺れあまりひそ
風騷乃英漢に嘉称せしに。優柔
絶妙なるを愛しても好む乃輩
今公子。とのく此風に操しつるこ
て。後よ假名乃一体とれしく平假
名なん号ふあり。草の字とは正書の真に対し此称と大字畧し一字毎に
九字のようちをに謂真の真乃行真の字あまた宗
いふやうに見えし是れ真は漢字乃形によりて
軽なるかやく成字こそ字あくをつゝ一つとも
字るやうにこく字は体用をとゆく衣冠とと書き掛入

甚麗しく平生の事となれ、さされたる字の名
とハ平仮名の如くにしく手跡すると見ゆしく平仮
名といふ
ありときこまつて乃るゝによつまでし。其擬輿
もる余てるれバ。生と天地とひかりて。化と
人身乃ほかしへにゆくちかぞ行ちに出そし
を説ありといへども。おほくは竜図天章
なん宝閣に秘せられ。竜図閣ハ宋の太宗乃
の書籍典謨と治宋の仁宗の文庫之天章閣ハ真宗
伝因ひく天子の文庫よれ真る文割衆出見ざなん
爵なん三の床にあらひあるハやそのく

人の後にハく。凡文士商客みなしもに威
示さハれ。衛懐聲説の。口に販貝なり
媚ることのミ。おほしく。今なん世俗よ
仮名の形も輯め。小冊の民の心に浅
出と訳あり。行酒とやいつる胸子乃
おもく傳へもてる物もしく。京の花英門
家集。指遣通るなれ清書と。祖父河
門翁日にあつくへ申されたる間。款切

やしくて。とかくに忘へいかひ誤の文字(もじ)の事(こと)かよひたる誤(あやまり)あるによりて。その字(ち)おれ見るときかすれたる有(ある)も多し。序(ついで)といふ。後学(こうがく)の為(ため)に定め置(おく)べき也。萬文字(まんもじ)つまやかなる所(ところ)よ。我(われ)も去(さ)る日比(ひごろ)より思(おも)ひむよりしるすなりと。許容(きよよう)するに似(にか)せ。大概(おほい)かくのごとく撰(えらび)くらしと指(さし)ぬ進(しん)ぜんとする時(とき)。悪(あし)くも行(おこな)ひあいあつかふ事

かゝく。合點(かつてん)せし続(つゞ)ける書(しよ)を合点とはれと信し校考をとけんとするに而ふと点をあせ考(かう)へてその誤を加ふるに朱点を加ふるく家は定家の家も去る日比よりおぼひよりしるすなりと許容しますする後のよかれともよつて勘弁せられたる所もまた又新点の後さだめし後の書を認むる所の記憶不落にむとぞかうる所もありしく朱点をとこさら拙くと見ゆるし。その内批点加へこれそれはその批点を勘弁し朱点をところどころ新加の後勘をとかくつまつるもあるべし。それとこれらのまいりかゝるを従ふれど さいふれと点定家許容の事とかくなし標準とすべし。後世(こうせい)に捉(とらへ)てなんとされば。

然定家卿の死後。七十余年を経て
撰ミし。玉葉集なとの人にてありく
ありぬ。行阿乃後勘を撰へてさとす
こと。さりのみならす。假名つかひの乱し
侍るに字する事又おほし。藤いれ此基俊
を假名によりてかなりくに書とかくさし
ありし。悦目抄にて。今川了俊を
彼丸秘抄にて説と言塵集ま

聚しつゝれ皆修字乃取捨なれハ
梓行本に判とありく。大同少異の類
りき疑をなし。且ハ文字つかひ乃
捷径をもおほれハ。流に後学のあやまり
を生せしむるのみく。ちく性耕を志に
おこり彼御方にも事ひろくく。さすか
是をとらへたる。世々の説に悉く家。
発明とするへからまちすかあるへく。始

此道のをしへと成給へり。彼かなのおく書に云

為後學粗記之。勿令他見者也

私云後小松帝の年号に応永と云あり
私云吉備大臣と申は四朝に事え給ひ

寶龜三年二月十七日以

先生自筆なる本写之畢

末流　耕雲

かの後書を待て字を記をさとし。且他なるを考へて。増す数百言

さらにその餘乃多かるいろく記

明九潤色と別あり

いろはの筆字

耕雲なにはよく漢字には字義をしる

て。同じ文字を書にもさえとくれも

かな遣いは字細なかまし。和字は文字

一かたに形し。漢字の字を正ありとし。

和語のかなとあらいれのい。さゑい古

より邑のおさめかし。或ハ別の子を同
書に用ひる事あり。七ハ乏之上邑より
又吉邑之。從ハ越へ邑之。いハ上聲
伊ハ平声。あるひハ訓と音に假る
あり。巴ハ止訓邑ニ。江ハ江声コウ。丹ハ
丹声タン。見ハ見訓ケン。兄ハ兄声ケイ
汁ハ訓ニ重に混ひ。万葉と見へくも
之と下畧[illegible]いろは字

七字の内。みなく訓の字なりしかいはよ
通ひし。字母と混とし
い晋王太宰[illegible]及[illegible]為弘
法大師[illegible]以と
将しく[illegible]章帝にそしよ
て史游[illegible]隷[illegible]解[illegible]と
[illegible]隷の規矩[illegible]字の梗概を
なおもと[illegible]名つけくと
もぞれく
いろり
ろ 紀字
ん なり
以 呂 隷 乙 凡 俗云古字 のいノ字
己 七ついろはとならぶの[illegible]いノ字の[illegible]字
の[illegible]乙と[illegible]說文[illegible]本作乙从反己

とせられしの
古字なるべし

ろ 草 行 呂 真 ㄖ 古文

は 草 行 波 真 㵎 古文 㵎 七つのいろはにあらず

うらい那なり
と知るべし

に 草 行 仁 真 𡰥 古文 𠂆 一日

王羲之草訣百韻云有点方為水空挑却是言
ゆへなりしとゑゆましとかとみえ人篇の字字
たまへしものゝ見ありてあらはするを漢とかなり
草字に姿あり陰字に陰と備とし後に縁とし
篆を衡とし假名の字体と略しても草の姿を
と知りの字を求く假名となしゑて余ほし宗家

ほ 草 行 保 真 保 保 古文 保 一日

へ 草 行 の假名つゝひふへ（ヘツ ホツ）ちもらしく人と字
を手文字なに一文字と云ふるありあるひは又
の字は略とて古の人ハ多くの説ありと云はあるへ
らへへいつれも字なり也耕かなれは四字ありいろ
は四十七字の内むまぬかさきは字も入てもかく
れしまれ侍まいにおかくらしくいまるくるし紀習
知じるる
るへし

と 草 行 止 真 止 古文 土 七つのいろはにとらず
の字あまりあやまりて

ち 草 行 知 真 知 古文 㫚 古文 日 曰 七つのいろは
あやまりなり
あるれもあるへし

り 草 利 行 利 真 利 古文 利 同 七いろはふめ又ふ尽するは非也

ぬ 草 奴 行 奴 真 奴 古文 奴

る 草 留 行 留 真 留 古文 留 七いろは呂波ふ如比留するは畄の字にあらず累の字なり累は本字纍なり訓は古文なり

を 草 遠 行 遠 真 遠 古文 遠 七いろは呂波ふめ長あるは非なり

わ 草 和 行 和 真 和 古文 和 同

か 草 加 行 加 真 加 古文 加 七いろはふめ氏まさは非なり

よ 草 與 行 與 真 與 古文 與 七いろはふめ又比するは非也

た 草 太 行 太 真 泰 古文 太 七いろはふめ氏ゑいあやまりなし

れ 草 礼 行 禮 真 禮 古文 禮 七いろはちようくのことくまさは非之

そ 草 曽 行 曽 真 曽 古文 曽

つ 草 一説門の字とよつり楼よりの音なし丁候切音斗之とありて声トウ之又都哉切トと訓あり文一説圖の古字圖と書するは誤しとして図の畧とよりは非なり又万葉ふままありて川の字とよ一説あり乏文說同しさてまた字採と草法とまちぬ人の說なり両字耕ともふ出てう追て考ふべし

ね 草 祢 行 祢 真 禰 古文 禰 同 禰 非之

な草 奈行 奈表 古文 奈 七いろは不如此字非之

ら草 良行 良表 古文 良 日 良 非之

む草 武行 武表 古文 武 非之

う草 宇行 于表 古文 宇 七いろは不如此字の字

ゐ草 為行 為表 古文 為 同

の草 乃行 乃表 古文 乃 同

お草 於行 於表 古文 於

く草 久行 久表 古文 六 非之

や草 也行 也表 古文 也

ま草 末行 末表 古文 末 非之

け草 計行 計表 古文 計

ふ草 不行 不表 古文 不

こ草 己行 己表 古文 已 非之

え草 江行 江表 古文 江 日 字辨に本字なり

ゑ異体の字といふ衣の字の草といひ香の五音之ろ
草字に衣を衣とし衣と衣と衣をくニ点を
省といふり文訓よつりて
ゐの字ともいふり此字非之

て草 て行 天真 亓古文 亖 といろはより出 亖天字非之

あ草 あ行 安真 宀古文

さ草 さ日 左行 左真 𠂇古文

き草 𢦏行 幾真 𢆶古文

ゆ草 𠙵行 由真 繇古文 油 といろはより出 けるハ油の字と

め草 女行 女真 𠬝古文 是從子妙の字といへり又云名の字

ともに妙の字ハ女と名の字ハ名と王羲之

自よ是を以ば名と云とかく名と呂との字は又おと

後しめ依母是也を以て女と母との字を又せ

よりあの字の事に以てよれとなと女とも字の字の

古は是めり自也とうろは
今耕と女子よきてこ字

み草 み日 美行 美真 𦍌古文 𦍋非之

し草 之行 之真 㞢古文 㞢 といろはより 是ハ士の字之

ゑ草 恵行 恵真 𢡱古文 𧟹日 𧟹非之

ひ草 比行 比真 从古文

も草 毛行 毛真 𠂨古文 𠂨非之

せ草 世行 世真 𠀍古文

す草 寸行 寸真 寸古文 是從子寸の字 といへり 子の自

これは假名をしるくつゞけたるものなり
にたりく須を
て者八は盤半ゆ閉
まみ冊小尓爾本登東
里梨梨李李奴怒努努
類流流留流越王この可閑
堂刀多連禮婁婁
楚津那羅無年年

宇宇井井比比能能農農
具屋満満万馬氣氣
希遣布婦古兄兄
疊亭阿佐遊免之
三志衛飛悲悲
勢須壽春
などといふもまへにあれと案して
すべてをさとしへし

片假名の以呂波

一片は半と判なり又いはく木の字の半と
いへり木の字を中より从ひ下根本なん
牀ありといつるは徐鍇か木の字を釈し
て其の詞なり説文に木と朩と書て是
を半にして片とし今片の字を書に多く片とするはあやまりなり
則字の片の字は猶を木の初生
に喩へ一枝一葉にして茎中に類し
枝蹊萌蘂の功いまたしくさかるに
多とふ字乃含るまゝ 書に字義あり象形会意諧声指事假借転注の六あり
近て注っし書家この義に倣て字の
楷書に倣術を半本は片に抄して
草ハ草よ創の義なりといへる書法にも
見るへし此心にて片假名といふも
偏ありかくれよりてササと菩薩をなしヒヒと
と縁起とし ムムと華厳となるの

みなひらくくと云数をあつむるを
彼片本此片なく其訓以てよぶに
字躰顕然する家も常のこのと
入るにむとしたんとの伝ふく字
義とぞ

イハ伊ノ畧　ロハ呂ノ畧
ハハ八ノ全　ニハ二ノ全
ホハ保ノ畧　ヘハ反ノ畧　假名のへと字形其之

トハ止ノ畧　チハ千ノ訓
リハ利ノ畧　ヌハ奴ノ畧
ルハ流ノ畧　ヲハ乎ノ畧
ワハ和ノ畧　カハ加ノ畧
ヨハ與ノ畧 古文亐ヨノ畧之　タハ多ノ畧
レハ礼ノ畧　ソハ曽ノ畧
ツハ　子ハ子ノ訓
ナハ奈ノ畧　ラハ良ノ畧

ムハ牟ノ畧　ウハ宇ノ畧
井ハ井ノ全　ノハ乃ノ畧
オハ於ノ畧　クハ久ノ畧
ヤハ也ノ畧　マハ末ノ畧
ケハ介ノ畧　フハ不ノ畧
コハ己ノ畧　エハ江ノ畧
テハ天ノ畧　アハ安ノ畧
サハ艸ノ畧　キハ幾ノ畧

ユハ由ノ畧　メハ女ノ畧
ミハ三ノ全　シハ之ノ畧
ヱハ　ヒハ比ノ畧
モハ毛ノ畧　セハ世ノ畧
スハ須ノ畧

此外訓点と稱するに字にあらぬ假名にあらさる事あるへハメす又ハ片乇ンの類なりメハ而ノ字のんとに附ける

なり是とミテかと云へるを略してテ
の字ハ半字を用ゆるなり すハ時の略
なるを 卄と書ハ トとキとを合成乃字
なりこ梵漢悉曇家の畧肆ハ字法
ふかし

畧肆の字とハ異体字を示もの㕝とり
やうるといへ梵字ハ法ふ別の字を二字
三字以丕字みな続合せてかきめるえ般梵文の字
世の疏ふ二連と云の聚なり漢字にきシヤと云
一字ハ音なれハ乞又ハ迦と叉とを合せ二合と法し
て梵に一字あてと志つらとるなりされハ大日いろはの
あくにさらへの二字とハいふ京の一字ハ音とせうう
れするも余の二字三字とあそせらく一音と混るの
例とこゝろうべし されバ畧するも 杵杵大納言と羽成なれバ
乞又の理をしるべし
書筆はかも二字合成ハ只偏傍といひ又ハ上下
といへく 点画相兼の訓もあれバ トとキと
と知へし
合せ書に 卄とかくもして 卄と書るハ
点画あひ兼るし 𪜈の字又れかしく
トとモと二字合成なり シハ牟の略なれバ
假名ムといふ声なり是とシと書ハ
蘭とラニ 鬼ハその魂なりと訓しる

ヲンとヲへをとヲニといふ習(ナラ)ひあり其
義(キ)をふくムと二の字は用(モチ)ひて
能(ノウ)もハヌルの理(リ)とぞいへり

三行假名つかひ

一つには假名(カンナ)ども志らしむる二つには假名(カンナ)
の字(チ)体(タイ)と見ゆること三つは某(ソレ)の訓(クン)は
某(ソレ)れ字(チ)といふを顕(アラハ)とこれまさ
三行(カウ)かなつかひといふの名(メウ)義(キ)なり

い

いゝ いとくかた 加共
いせ 世 五十淑
いしさゝ 比之刀三 箪
いひき 比姿 箭
いひら 比良 鍔
いほ 比保 杏篆(ギヤウエフ)
いもち 毛知 揖保
いしもち 之三 鍍
いしなき 之奈三 不浪

五十鈴川
いも 毛 妹
いひしろ 比之呂 邑代
いひの 比乃 入裳
いひとよ 比止与 体為
いひ 比 緘 鶏鷄
いしみ 之示之 鉛
いはしき 波之我 膂

いしずゑ　之志之　矼　石礎之

いし　之　倚子（イス）　石

万
いめひと　女比止　射目人

拾
いきすたま　支寸刀万　窮鬼

和
いきくさ　支久左　景天

いきる　支留　熅燃

いきほひ　支保比　勢

いきなかところ　支八南止己呂　長生地

いしへ　之八之　石邊

いみな　三南　諱

見
万
いめ　女　蔓（コメ）

和
いぎす　支寸　海髪

拾
いきざし　支佐之　気調

いきどほり　起止保利　憤

いき　支　息

いさぎよし　左起与之　潔

いさゝけきもの　左々寸去毛乃　甚　月

いさふく　左不久　緑伏

いきす　氣寸　䉾

いぶり　不里　安息　日

いぶせし　不可之　欝悒（イフセシ）　万

いこふ　己不　憩

いでて　天　厭之　日　万

いさせり　左世刀利　長　日

いさゝか　左々加　小　日

いさむ　左武　勇

いふ　不　云

いぶかる　不可多　訝

いぶせきに　不春起　揖宕　和

いえく　兄天　中矢　日

いてや　天也　云尓　日

左 さ 不知
左利 さり 漁
左可不 さかふ 諍
左 さち 血泣 日
左武 さむ 諫
久知 くち 鈌脣 和
久太末 くたま 生國魂
久武 くむ 憤 日

左 ざ 去来 日
左遠之 さをし 豪傑 日
左与不 さよふ 徘徊
左良井 さらゐ 潦水 日
左武 さむ 制禁 日 万
久太 くた 活田
久礼 くれ 勇悍 和
久左 くさ 軍

久左乃不祢 くさのふね 艨艟 和
也知己 やちこ 灼然 日
末 ま 今
末起 まき 新漢 日
満之 まし 汝
計 け 池
計止利 けどり 虜
奈都支加尓 なつきかに 稲舂蟹

也 や 弥
也之 やし 賤
末刀 まだ 未
末之 まし 乃
末須 ます 坐
計尓 けにへ 牲
奈武 なむ 辭
南久良 なくら 囿 和

〃なごまろ 奈己未呂 蚱蜢 和
〃なみの 奈三乃 印南野 万 日
〃こへ 己 [illegible]
〃らつこ 良己 郎子 日
〃ららくさ 良々久左 羊桃 和
〃む 武 忌
〃むこと 武己止 戒 日
〃のる 乃留 祈

〃なさ 南左 引佐 和
〃ら 良 苛 和
〃らか 良可 甍 和
〃らなし 良南之 [illegible] 日
〃らし 良之 儀 日
〃ん 牟 宍
〃のち 乃知 命
〃く 久 生

〃く 久 幾
〃くはところ 久八止己呂 射垜 アムツチ 和
〃そのはし 曽寸波之 寡
〃づる 豆 出
〃つ 何時
〃つる 豆 弋 和
〃つく 久 何處 万
〃ね 祢 稲

〃くそ 久去 育波 和
〃そ 曽 礒
〃そく 曽久 急
〃づ 威稜 日
〃つへ 嚴瓮 日
〃つれ 礼 孰 日
〃づみ 美 泉
〃な 南 否 不

い[illegible] 由去 周懐
いなつま 南末 稲妻
いたゞく 刀々久 頂
いたづら 刀良 徒 [illegible] 万
いたむ 刀武 痛
いたやがひ 刀世可比 文蛤
いたび 刀比 木蓮子 日 和
いか 可 烏賊

いなり 奈利 稲荷
いたる 刀留 至
いたゞき 刀々夷 巓
いたつき 刀[illegible] 平題箭 和
いだく 刀久 抱
いたや[illegible] 刀世久之 流矢 日
いれずみ 礼寸三 黥 日
い[illegible] 可冊 [illegible]

いかり 可里 碇 和 定石 万
いかた 可刀 鎔
いかづち 可知 雷
いがき 可我 瑞籬 万 和
いがひ 可比 貽貝
いよやか 与世可 矗
いたはる 刀波留 労
いたち 刀知 鼬 禾

いかるが 可留加 鵤 和 斑鳩
いかだ 可刀 筏
いがむ 可武 啀
いかし 可之 嚴 日
いよゝ 与ゝ 弥
いたい 刀 板
いたとり 刀止利 虎杖 和 本 日
いちひ 知比 櫟 日 古 万 和

うちはし 刀和波之可三 久ゝ

ちろし 和志呂之 鼓海鼠 和

りこ 利己

ぬめり 奴女利 継

ぬるでし 奴刀天 蔀芽 和

るか 留可 江豚 和

を 乎 魚 和

いり 王之 鰯 和

蔓椒 和

ちひと 和比止 亭郭咒 和

りもの 利毛乃 鵬 和

ぬ 奴 犬狗 和二丑 又氏

る 留 入鐃鼓

るゝせ 留可世 忽菸

とり 止利 漁子 和

が 可 伊加矣

の 可 五十日

と 止 綵

とゝ 止々 弥 万

とゝか 止之 加留 袁不恵聴 日

ども 止武 挑

とふ 止不 耽

ちくらし 起南之 幼

ちはや 和波世之 萋數鳥 日

へつらいも 毛 芋

わし 登 甚太痛

ともし 止奈武 突栄

とま 止末 暇

とこ 止己 従父兄弟

ち 和 亭

ちくら 和久良 廓 和

いちこ 知己 覆盆子

いはゆる 者由留 所謂

いほり 保利 庵 廬

いほすな 保寸南 魚鯑 和

いへはと 波止 鴿 和

いろくつ 呂久 鱗

いろこ 呂己 雲脂（フケ） 和

いはほ 者本 巌 万

いはゆ 者由 嘶 和

いにしへ 尓之 古 古方 万

いふしり 浦武之里 樫娘 和

いへ 家 万 和

いへとも 止毛 雖

いろけ 呂計 嗜慾 日

いは 波 岩

い[illegible] 八之 羊躑躅 和

いはつか 者南 石縕 万 絡石 月 蔦（ツタ） 今按 女蘿 日

いはなし 者南之 蘗梨 和

いはくそ 者久系 黄柏 和

いはや 者也 窟

いはむや 者武也 況 剝

いはけなし 波計南之 巨衣乱

いろね 呂年 兄 日

いろは 呂波 母

いはのかは 者乃加八 石葦 和

いはくすり 者久春利 石蘚 和

いはむ 者武 屯 日

いはけ 者計 驚駭 日

いはふ 者不 祝 [illegible]

いろと 呂止 弟 日

射 日 獵

い　妄

中下のい

左以久左　さいくさ　三枝　和
左奴以刀　さぬいしい　祐 キヌタ　和
志計以止　しけいと　緘
春以刀　まろし　次田
己以之呂　こいしろ　漕代　和
安以知　あいち　和乞知　和

以呂　いろ　色
春奈以毛乃末宇之　はないものまうし　お納〻
紀以乃久介　きいのくに　紀伊国　和
志利可以　しりかい　鞦　和
寸以可紀　すいかき　透垣
己以末呂比　こいまろひ　展轉 テンテン　万
兄左以　えつさい　悦哉　和
安以可　あいか　秋鹿　和

安以刀　あいし　鮎田　日
安以左　あいさ　秋沙　万
左以止利　さいとり　弾丸
左以己呂　さいころ　迫骨
於以曽乃毛利　おいそのもり　奥石杜
久以　くい　悔　日 万
世以者　やいば　刃
世以久之　やいぐし　串　倍不串（とえ串）

安以申之　あいぬし　山梅
左以　さいべ　犀　和
左以　さいつち　頭子　和 万
於以可計　おいかけ　椙楾　和
於以天　おいて　緌
久末乃以　くまのい　於保　日
世以左久左　やいくさ　人参　和
世未乃以毛　やまのいも　熟艾 ミノカイ ヤイト　延
　山芋

まないた 末奈以刀 俎

こい 己以 冷 日 俗云コヽ 和 コルヽ

ついがき 津以可起 築垣 和

ついたて 津以刀天 衝立

ついえ 津以兄 費

ついひぢ 津以比ぢ 縁 和

ないとりあはせ 南以止利安八世 鳴禽合

むなかい 武奈可比 當胸 和

ふいかう 不以加去 吹革 鞴

ついばむ 津以武 啄 和

ついたち 津以刀ち 朔

ついまつ 津以末 續松

ついて 津以天 次序

ついし 津以三之 柱礎 和

ないがしろ 奈以可之呂 蔑

おい 於以 老

[illegible] 来以以利 [illegible]

にしのたい 仁之乃刀以 西對

かいつばた 加以之刀 劇草 カキツハタ 和

かりやす 可以南 薫草 カリヤス 和

かいまみ 加以末養 [illegible] 大 日

かいもちひ 可以毛知比 掻餅

かうがい 加手可以 [illegible] 和

たいふ 太以不 大夫 大輔

にいた 仁以太 仁多

ほいなし 本以奈之 [illegible]

かいねり 可以祢利 掻練

かいなづる 加以奈 掻撫 日 カキナヅル

かいげ 可以計 [illegible] ヒサクワ

かうい 加手以 更衣

たいま 太以末 當麻 日

たうい 太手以 擣衣

はいと 波以止 隼人
はいま 波以末 驛 日 万

ゐ

ゐ鳥 秼
ゐちこまめ 為知己末女 豌字豆 和
ゐなか 為奈加 田舎 万 和
ゐのこづち 為乃止己豆知 赫雞 和
ゐのこ 為乃己 豕 和
ゐぐひ 為久比 榲杙 日

はいたか 波以多加 鷂
ゐ 為 居 日 井 堂
ゐる 為留 射 ヒキ井ル 鯖 和
ゐん 為牟 院 エン
ゐのくち 為乃久津知 牛膝 和
ゐかあし 為鞍安之 織複 和
ゐさり 為左利 未底 和

ゐざる 為左流 絆行 和
ゐせき 為世支 堰 和

中下のゐ

いぬゐ 以奴為 乾
とりゐ 止利為 鳥居 和
かはゐ 加老為 川合 和
かなつなゐ 可南奈為 桔槔 ハネツルベ
かせゐ 加世為 湯沸
なゐ 奈為 地震 日

ゐごろひ 為古呂比 膂 和
ゐもり 為毛利 守宮
ほかゐ 本可為 行器
とのゐ 登乃為 宿直
かたゐ 加太為 乞児 和
からあゐ 加良安為 雞冠花 万
よゐのそう 与為乃曽宇 夜居僧
なまゐ 奈末為 沢潟 ヨモダカ 和

うなゐ 于奈為 髫髮 万 和

おほゐ 於保為 莞 万 和

おほゐつかさ 於保為可左 大炊寮 和

くわゐ 久王為 烏芋 和

くれなゐ 久礼南為 紅

くらゐ 久良為 位

くもゐ 久毛為 雲井 天雲 新万

まとゐ 末止為 円居

まゐる 末為留 參入 万

まゐて 末為天 詣

こゐ 己為 来居 子云

まなこゐ 末奈己為 眼皮 拾

あづさゐ 安豆左為 紫陽花 和

あゐ 安為 藍

さゐ 左為 佐為 古事

さゐとま 左為刀末 莎艸 広

しほさゐ 志保左為 潮佐為 万

しつさゐ 志我為 鎮居

もとゐ 毛止為 基

もちゐ 毛知為 用 モチウ

(ひ)

此ひ部ニハヒノ字中下にありもしくは以下為トの事に
まゝひとつあつかひ故に中にもハヒフヘホに通
ふるひいふこゝろくまゝおほゐ
なくとまゝおこほを

いちひ 以知比 櫟 故 万 和

いりあひ 以利安比 入相

いぬかひ 奴可比 本之 牽牛 和

いぬのたまひ 奴乃太末比 犬宮 和

いたひ 太比 木蓮子 万 和

いひ 以比 飯櫃

いひぼ 比保 粒 日三延

いひぼ 比保 肬目 イヌメ 和

いひぼ 以比本　揖保

いひあり 以比安利　赤様 和

はちすのみ 波知寸乃美比　蔤 和

こつくろひ 己久呂比　戚 和

はまはひ 波末八比　蔓荊 和

そひまゆみ 弖比末由三　杜仲

まねゑひ 毋於毛比　將 和

まひ 毋比　彰 万

いひとよ 以比止与　体殿 和

はへらひ 波八良比　内掃 和　幌 ー

はかひ 波可比　羽易 万

はくひ 波久比　羽咋 和

はひ 波比　灰 和

にくなひ 仁奈南比　彰掌

みもひ 三毛比　以水 維

にひろ 仁比呂　耳遂 和

ちひさし 知比左之　小

まひせ 毋比世　座妹 和

ちひさきもの 知比左伎毛乃　褌 和

さひ 左比　鍔 和

かびひ 加々比　燿歌 万

これひひ 可礼比々比　納

かきのいひ 加刀可之起乃以比　標子 和

かれひげ 加礼比計　饗饒 和　納筒 和

ちひさかく 知比左可カ　小駄 和

ほかひびと 保加比々止　乞索児 和

ぬひもの 奴比毛乃　補 和

わくひ 和久元比　支去 和

かくかひ 加刀ミ加比　参兄

かれひつけ 加連比計　鞴 和

やりことさして いへる名なり

加良兄比 かれひ 王餘魚 カレイ 和
加之比 かしひ 香椎 日 万
加比 かひ 貝 万 和 殼 カラ 和
可比留天乃毛之 かひるてのもし 雞冠楓 和
加比己 かひこ 蠶
加世比 かせひ 桛 延
与呂可比 よろかひ 丁兜
与呂比久左 よろひくさ 白芷 和

加計呂比 かけろひ 蜻火 故
精米 香粳 三 いゝれも 日
以比可比 いひかひ 飯匙 伊
可比南 かひな 肘 設
加比己 かひご 卵
加幸可比 かおうひ 從 僞
与呂比 よろひ 鎧 日 一具 円
与寿比 よろひ 鈴

与波比 よばひ 結婚 日 万
与比 よひ 宵 日
太知比 たぢひ 丹比 和
太良比 たらひ 盥 手洗
太末之比 たましひ 魂 万
太比 たひ 納 鯛 和
曽可比 そかひ 背向 万
曽比 そひ 謗 カヘセニ 日 和

与八比保之 よばひぼし 流星 和
太止比 たとひ 假令
多可比 たがひ 互
堂乃己比 たなごひ 手巾 和
太末比 たまひ 嘔吐 日 反吐 ヘド
太比良 たひら 平
曽己比 そこひ 底 万
曽比 そひ [?] 和

寿比 すひ 酸 和 俗に酒のかへるをいふ
可比 つかひ 使
津久乃比飛止 つくのひと 容作児 和
奈末之比 なまじひ 憖 生憖 万
武末加比 むまかひ 圉人 和
于久比寸 うぐひす 鶯 和 万
于計比利 うけひり 祈狩
于比乃比末 うびのひま 戴星る 和
寿比 すひ [illegible] 日
比冊 つひに 遂 万 故 俗に下やとあれ人とまじく
武威春久比 むさゝび 鼯鼠 和
千比之之 うひうひし 初々安
日 千寿比 うちあひ 雉井 和

爲左良比 ゐざらひ 醫 和
於止可比 おとがひ 頷
於保比 おほひ 首蓿 和
久良於保比 くらおほひ 鞍帊 和
久左毛知比 くさもちひ 鎚 和
久比奈 くひな 水鶏 月 和
久比世 くひせ 杌 和 杭
也南久比 やなぐひ 胡籙 和
於保以於本止毛比 おほいおほもひ 大餘 和
於浦左比 おほさひ 大忽 和
久呂刀比 くろづひ 竈魚 和
久ゝ比 くゞひ 鵠 和
久比 くひ 杙 和
久比於浦比 くびおほひ 髯綖 和
世与比 やよひ 弥生
世末乃可比 やまのかひ 山峡 万

也末比 やまひ 病

末比 まひ 舞 幣 日 万

末比奈比 まひなひ 賂

計比乃于美 けひのうみ 笥飯海 万

不奈与曽比 ふなよそひ 艤 和

不気比乃志末 ふけひのしま 吹飯濵 万

己末比 こまひ 狛舞

己々呂志良比 こゝろしらひ 有さ 日

也末比々良岐 やまひゝらき 巴戟天

末比利久左 まひりくさ 苦参 クラヽ 和

末比乃加之良 まひのかしら 雲冠 和

不知乃之南比 ふちのしなひ 茷壅 文

不留比 ふるひ 篩 和

己止比 ことひ 特牛 万

己比 こひ 鯉 和 恋 [illegible] コヒスチ八 和

己比 こひぢ 泥 和

江比 えひ 鱏

安留比波 あるひは 或

安奈々比 あなゝひ 麻柱 作

安末比册 あまひよ 如 故 日

安布比南 あふひな 鰕夷 和

安由比 あゆひ 脚帶 日 万

安比刀 あひだ 間

左可本可比 さかほかひ 寿 日

安波比 あはひ 交

安刀比 あたひ 價

安南々比 あなゝひ 穴太ゝ比 日

安不比 あふひ 葵

阿乎之比 あをしひ 清盲 和

可対安比 うけあひ 橡將

安比於比 あひおひ 相生

左可比 さかひ 境 日 万

左良比 さらひ 欋 和

左比可 さひか 雑賀 万

左比毛知乃加美 さひもちのかみ 鋤持神 日

女之比 めしひ 盲

三不留比 みふるひ 漉乃嚢

志七年 しゝにし 瘵 和

志比天 しひて 強 万

比止太末比 ひとだまひ 副車 和

左不良比 さふらひ 侍 和

左比豆恵 さひつゑ 錫 和

左末刀比 さまてひ 振膊 和

女比 めひ 姪 和

志比 しひ 椎 日 放 万 和

志比那世 しひなせ 秕 和

志比左満留 しひさかぶる 淡溺 日

比止比女久利 ひとひめぐり 壱白袮 和

比刀比 ひたひ 額 和

比ゝ南安乃比 ひゝなあそび 雛挺

毛止由比 もとゆひ 髻 和

毛刀比 もたひ 甕 和

毛世比 もやひ 舫

毛比止利能可左 もひとりのつかさ 主水司

寸末比 すまひ 相撲

左比可良 さいかう 思色

比ゝ留 ひゝる 蛭 和

比ゝ羅久 ひゝらく 疼 日

毛知比 もちひ 餅 和

毛乃久留比 ものくるひ 癲狂 和

毛見久比 もえくひ 燼 和

春末比 すまひ 住 万

春末比久左 すまひくさ 白蒿 字 全

（と）

登 と 岑 山の尾之 万　峰嶺 和　雄　荢　抜　尾 万 和

登呂知 とろち 蛇 クチナハ 万

止八利 とはり 絡　尾張

止保年 とぼそ 尾棟 アリ三

止久比 とくひ 詛 万

止利 とり 雄踊 万 拾

富止女 とどめ 少男

止知 とち 老翁 日 万

止波 とは 娯

止毋不 とふし 遠姿 和

止々之 とゝし 年 カ

止利 とり 媒鳥 日

止巳 とゝこ 少男 和

止知 とぢ 伯父 和

止知久 とちく 條 日

止知那之 とちなし 微弱 日

止利不之 とりふし 沐浴川

止之 とし 雄抜 日 万三

止加八良 とかはら 鬩 和

止可春 とかす 犯 中

止与比 とよび 及

止呂 とろ 糀 和

止年南女 とねなめ 嘉 日

止知己知 とちこち 彼此

止類 とるし 君 万 招 万

止可 とが 咎 万 和

止可武 とがむ 咎 月

止与久 とよぐ 派

止力 とかし

止牟奈 ともな 少名

止年奈 とんな 女 万 ヲウナ ヲミナ

止千止 とうと 丈

乎乃 をの 斧 和
乎乃己 をのこ 男
乎久南 をぐな 童男 日
乎久比 をくび 小頸 催
乎計 をけ 桶 令
乎不左 をふさ 鞦 和
乎己加末之 をこがまし 径廷 文
乎己都留 をこつる 誘 イサナフ 日

乎乃々久 をのゝく 戦
乎久津 をぐつ 麻鞋
乎久良之 をぐらし 篝籠 文
乎計 をけ 麻笥 万
乎介良 をけら 白朮 和 万
乎己利 をごり 奢
乎己多利 をこたり 怠
乎己之 をこし 擡魚 和

乎左 をさ 筬
乎左 をさ 長
乎左刀 をさだ 他田 和
乎左南之 をさなし 不肖 日
乎左武 をさむ 治 万 和 納
乎左之 をさへ 斂 和
乎岐奴不 をぎぬふ 補
乎岐乃留 をぎのる 貫

乎左 をさ 通事 訳
乎左不之 をさくし 明直 日
乎左豆 をさづる 做弦 日
不敏 日 不畏 雅
乎左起 をさぎ 兎 万
乎岐 をぎ 萩 和 万 延
乎岐 をぎの 漆
乎岐志 をぎし 招鋪

止三那 とこなれ　女 万

止之 とし　鴾鷺 和 万

止之 としへ　蔵 和

止之武 としむ　惰 日

止之毛乃 としもの　歛 日

止比也可須 とびやかし　歛兌 万 日　劫

中下のと

波利止 はりと

波世を伎 だちをとば　芭蕉 信 和

止三奈之 とこなへし　女郎花

止之呂乃千未 とどろのうま　驍

止之加利 とかくし　葺 和

止之義 とげき　枳殼

止比 とび　螺

止 ととと　針魚 いを　魚　十

止良久 とらく　撓 万 夕ハヽ氏

止比 とびと　鍵

止 止利 とつきとへう　鶺鴒 和

和茂 わざをき　俳優 日

可茂 わざとさ

可武之 くつとし　蠛蠓 和

可左利 くさとり　笠居 和

加之 かくしと　篁集 和

加者礼 かたそれと　風流士 万

太也女 たそやち　婦人 日

止比 止 ひびと　鶹鶹 和

加也女 かふる　董 万 二ハクナフリ氏

加良左 からさと　連枷 和

加左義 かざとさ　風招 日

与利 よとり　薦枕

多世可 あとやり　婀娜

羅利 つるとり　丸枕

安乎止左利 あをとさり 篙朶

於補左 おほと 篠 タカノ

久左安 くゞとる 額

世武左 やむと 鰥夫 和

末乎乃左 ますらを 大丈夫

安左 あと 吾

安乎南 あをな 蔓菁 和

安乎千美陀元 あをみはら 滄溟 和

宇乎 うを 魚

於乎千知 おほうち 大内

也乎元 やをら 和

末乎寸 まをす マウス 申 日 万

天乎乃 ておの 釿 和

安乎止 あをと 欞核 和

安越武之 あをむし 螟蛉

安乎乃利 あをのり 陟釐

安乎左老 あをさぎ 鶄 和

安乎ら あをさし 襖子 和

左乎 あをし 棹

夢呂之乎 こをろ 笄 万

美乎ち之乎 こをろとを 窈窕 和

美乎止之乎 みをして 至食 日 万

志乎利 しをり 披折 示

志刀乎 しをり 箕史 和

比乎止利乃比 ひをりのひ 引折 日 伊

安乎美 あをみ 碧海 和

安乎之 あをし 綠子 和

左乎之可 さをしか 牡鹿 日 万

三乎久之 みをつくし 澪標

美加乃千末 みをとのま 聰呂 和

志乎安 しをる 芝折 新万

比乎武之 ひをむし 蟯 和

(お)

おい 於以 老 オユ 万 日元

おいそ 於以曽 奥石 延

おろか 於呂可 愚 日

おろかおひ 於呂可於比 穏 ヒツキ 和

おろけく 於呂対天 失気 日

おろす 於呂寸 卸

おそしア 於老之万 檻 和

おま 於丹 鬼

おいけ 於以可対 繞

おいて 於以天 於除

おろか 於呂可 愚

おろそか 於呂曽可 疎易 日

おろし 於呂之 下風 万

おそ 於老 祖母 和

おりまし 於八之末須 四更

おまわび 於丹和言比 ［illegible］ 和

おにび 於尓比 燐火 和

おぼろ 於保呂 朧

おほしく 於本三く 篭

おほとり 於本ニ利 鶴 和

おぼつかなし 鬱悒 オホツカナシ 万

おほち 於保知 祖父

おほぢがふぐり 於保知可不久利 螵蛸

おほかね 於保可年 洪遠 和

おほかしてのつかさ 於本可之天乃津可左 大膳職

おほ 於保 左

おほばこ 於保老已 車前子 和

おほとち 於保止知 茶 和

おほとこ 於保止已 櫛 和

おぼる 於保留 溺

おほわ 於本王 輞 和

おほかみ 於保可三 狼 日

於保与曽　おほよそ　凡 シヨソ
於本太可良　おほたから　人民 オホンタカラ 日
於保年　おほね　蘿蔔 タイコン 和
於保於　おほおば　祖姑 和
於本久知乃八可間　おほくちのはかま　大口袴
於本也未止　おほやまと　大和 和
於保未王己止比止　おほまつりことひと
於保江　おほえ　覚 オホユ

於本与女　おほよめ　姒婦 和
於保本　おほつぼ　虎子
於保祢武之　おほねむし　螬 和
於保こと知　おほ〱ぢ 和　曽祖父
於本久比　おほくび　衽 オクビ 和
於保不　おほふ　覆
於本由美　おほゆみ　弩

於保美武太知乃可元　おほきむたちのつかさ
於保者子三　おほきさうし　溟渤 和
於保三多久左　おほゑるくさ　莨菪
於保見安可之　おほみあかし　灯明 日
於保之　おほし　思欲 オモホシ
於保比多　おほひる　大蒜
於保世利　おほせり　[illegible]
於止呂　おどろ　棘

正親司
於本三知　おほみち　大路 和
於本美良　おほみら　韮 オホニラ 和
於保之　おほし　多 万
於保之可　おほしか　麋
於本世　おほせ　仰　深
於止　おと　音 カ
於止呂人　おどろく　驚

おとろふ 於止呂不 衰

おとゝ 於止ゝ 弟 和 オトウト

おとがひ 於止可比 頷

おとな 於止南 長

おとくに 於止久尒 乙訓 和

おりゐる 於利為為 下

おる 於為 織 日万

およづれごと 於与礼己止 妖言 万日

おとじ 於止之 大刀自

おとる 於止為 劣

おとよめ 於止与女 娣姒 和

おとなひ 於止奈比 音 日

おどす 於止須 怖

おりもの 於利毛乃 綺 カムハタ

おかみ 於可美 龗 日万 延

および 於与比 指 和

おすひぬき 於与比如貴 猶 和 續日

おだやか 於多也可 穏 オタヒ

おほば 於為波 鶚

おそふ 於為不 襲 万

おそし 於為之 遅 日

おづる 於為 惜 日

おらぶ 於良不 叫 サケブ 日万

おんてまへ 於年手末為比 御老 日

おたぎ 於力多 愛宕 和

おれ 於礼 爾 日 故

おむかふ 於為為 迎

おそろしきむま 於為浅むま 驚る

おつる 於為 落 万

おなじ 於奈之 同 月万

おうな 於武南 嫗 和

おんやうじ 於年世手之 陰陽師

於乃連 おのれ 已 万
於乃ゝ おのゝ 各
於具類 おくれ 遅 万 猶 万
於幾 幾 おくつき 墓 月 万
於世 おや 欺
於不 おふ 負 追生
於不之加不知 おふしかふち 凡河内
於己太奈比 おこなひ 行

於乃可良 おのつから 自
於久之 おく 記 万 隙 日 迩 日 奥 万
於久為之 おくるゝ 後 万
於久天 おくて 晩稲 万
於 おまく 御座
於不之 おふし 瘖 和
於己流 おこる 發
於己乃利 おこのり 於期菜 和

於己之己女 おこしこめ 粔籹 和
於左 おさへ 押 万
於左可 おさかへ 刑部 和
於幾呂 おきろ 顚
於幾奈 おきな 翁
於幾天 おきて 掟
於三末呂 おみまろ 意美麿
於之末幾 おしまつき 几 日 和

於己寸 おこす 遣
於左可 おさか 忍坂 和
於幾 おき 隠岐 熾 息
於幾 おきつ 息津 和
於幾奈久左 おきなくさ 白頭公 和
於美 おみ 使主 日 臣 日
於之年 おしね 晩稲
於之天留 おしてる [illegible]照

おてのうら 於之天乃不三 符 日
おびとり 於比止利 韡韄 和
おもだか 於毛刀可 沢瀉
おもふ 於毛不 思

中下をお

いなおほせとり 以奈於保世止利
はゝかたのおば 波ゝ加刀能於老 外祖母 和
はらおび 波良於比 腹帯 和
とほおや 止本於世 遠祖 日

おび 於比 帯 月 万 和
おもかげ 於毛可計 影 文
おもむく 於毛武久 赴
おもて 於毛天 面 表
稲負鳥 手
はゝかたのおほぢ 波ゝ加刀能於本知 外祖父
におひ 仁於毛比 將水 和
ちおも 知於毛 乳母

かりうどおきな 加八衣於志起 菓 和
くれのおも 久礼乃於毛 茴香 和
みちのおく 美知乃於久 陸奥
うらおもひ 十衣於毛比 程豫 日 万
くらおほひ 久衣於保比 鞍鞁 安 和
みのお 美乃於 箕面

ほ

中下ヲオの字ありくしきさくひとあつくくくこゝゝまゝる

いはほ 以老保 巌 万 和
いほり 以保利 庵 庵
いきどほり 以歩止保利 懐 日
にほふ 仁本不 白
いほへやま 以保世末 五百重山 万
いきほひ 以歩保比 勢
はつほ 波本 早穂
ほゝ 保ゝ 頬

保ゝ加之波　ほゝかしは　厚朴　万　和
保ゝ豆支　ほゝづき　酸漿　日
本ゝ天不　ほゝてふ　鳳蝶　和
保ゝ曽介　ほゝそけ　繡
止保知　とほち　十市　和
止保都於也　とほつおや　遠祖　和
止保之呂之　とほしろし　大　日　万
止ゝ己保留　とゝこほる　滞

保ゝ刀知　ほゝとち　帳　方立
保ゝ津賣　ほゝつき　硯子　和
本ゝ恵武　ほゝゑむ　微咲　拙
保乃本　ほのほ　焰
止保留　とほる　通　日　放　万
止保之　とほし　遠　放　万　和
止ゝ乃本留　とゝのほる　調
加波本利　かはほり　蝙蝠　和

可保　かほ　顔
可太保　かたほ　片穂
与呂己保比　よろこほひ　悦　伊
与曽保比　よそほひ　粧
曽保　そほづ　濡れ
奈保　なほ　猶　万
奈保之乃己呂毛　なほしのころも　襴衫
宇津本　うつほ　空

可保留　かほる　薫
加岐保　かきほ　垣穂　万
与本呂　よほろ　丁　日
太知毛止保留　たちもとほる　徘徊
曽本　そほつ　添寄
奈保利　なほり　直入　和
宇留本不　うるほふ　潤
宇之保　うしほ　潮　和

乃保秀利 のほきり 鋸 和ノコギリ　於保不 おほふ 覆
於本曳南利 おほさかり 大　於保之 おほし 多
世本可由久八末 やほかゆくはま 八百日行濱 万
己呂本比 ころほひ 比　己保呂秀 こほろぎ 蟋蟀 和
己保利 こほり 郡 氷　安左可本不 あさかふ 鮾魚
安久多己呂本比 あくるころほひ 黎明　呂本不 こさゐふ 競
美利左本 みるかほ 採　美之呂保 みしほ 海濱
之本 しほ 塩　志保天 しほで 鞅

志之比之保 しひしほ 醢 和　比止之李 ひとしく 一入
比之保 ひしほ 醬　毛与本須 もよほす 催
春奈保 すなほ 質

㋓

兄 え 江　江 江胞 栖 吉ね 蛙
兄比 えひ 纓 和　兄冊 えよ 緣 エン
兄保之 えほし 烏帽子　兄知 えち 乇知 和
兄利 えり 領　兄刀 えだ 枝 肢 梺
兄刀知 えたち 役　兄弓 えぞ 夷

えつり 兄利 棧 和
えなゐぬ 兄奈尼奴
えんび 兄年比 燕尾 和
えのき 兄乃貴 榎 和
えやみぐさ 兄世三久左 龍膽 和
えぶのみ 兄不乃三 閻浮子 左
えびかづら 兄比可戸 蒲萄 和
えび 兄比 鰕 和

えつさい 兄左以 悦哉 好家
えらぶ 兄戸不 撰
えむす 兄牟春 烝 ウヱム
えやせ 兄世見 痩 和
えぶり 兄不利 朳 和
えみし 兄三須 蝦夷 日
えび 兄比 鯢
えびかう 兄比可于 邑衣香

えびら 兄比良 房 左
えびすめ 兄比春女 昆布 和 コンブ

中下のに

いごえ 以吾兄 齗 和
おなのえむ 於那乃兄武 花宴
のえ 余兄 莫
ちえ 知兄 千枝 六
かもえ 加毛兄 鴨柄 和 世に云 かもゐ
ついえ 都以兄 費

えびす 兄比春 夷
いいえ 以以兄 魚
はえ 波兄 鮠 和
ほえ 保兄 吠
ぬえ 奴兄 鵼 和 放万
ろびえ 呂比兄 孱
つえ 都兄 刀利 潰

奈可兄　ながえ　轅　和
于兄不世利　うえふせり　瘻師　日
久刀乃不兄　くだのふえ　小角　和
古兄　こえ　肥　コユ
安兄毛乃　あえもの　肖物　日
左く兄　さでえ　[illegible]子　和
岐兄　きえ　消
比己婆兄　ひこばえ　蘖　和

奈兄　なえ　萎　万
乃武止不兄　のむどふえ　吭　和
不兄　ふえ　笛　日　和
安止比兄　あとびえ　竹刀　日　和
左兄　さえ　才　洒
岐乃兄　きのえ　甲
志兄刀久　しえてく　窔　ヱグ
比兄　ひえ　稗　万　冷　和

比兄止利　ひえどり　鵯　和
毛呂兄　もろえ　諸兄
毛兄久比　もえくひ　燼　和
春波兄　すはえ　楚　和

（ゑ）

ゑ　惠　餌　和
惠以久王　ゑいぐわ　含咲
惠止利　ゑとり　筆葦
居兒　和
惠奴乃己久左　ゑぬのこくさ　狗尾草

比兄乃也末　ひえのやま　比叡山
毛兄　もえ　崩　燃
毛兄義　もえぎ　萌黄
須兄留　すえる　破
惠以　ゑい　詠
惠毋す　ゑよず　槐　和　エンジユ
惠奴　ゑぬ　犬　和　イヌ
惠當　ゑゑね
惠留　ゑる　穿

恵可保 ゑかほ 咲顔
恵弁可乃左 ゑんかのざ 垣下座 保
恵久 ゑぐ 恵具 万
恵ネ 酔 放
ゑふ
恵武 ゑむ 笑
恵弁左 ゑんざ 円座
恵久保 ゑくぼ 靨 和
恵之 ゑじ 衛士

井下の部

保久恵 ほくゐ 礎 和 頭也千
ほくゐきやう 法花経 保
止毛恵 いつもゐ 鞆絵 江巴
於ゐ 世 ゐ恵之 ゐよ 鹿杖 和
与之恵也之 よしゐやし 吉哉 万
世恵 かせつゐ
大奈安恵 たなかゐ 手子 拄
久恵 つくゐ 机 和

恵 つゑ 杖 万和
千恵 ちゑ 智 日放 万和 凱 月
久恵八良加寸 くゑはらかす 蹴散 月
己恵 こゑ 声
己寸恵 こすゑ 梢
不三久恵 ふみつくゑ 文机 和
安奈毋恵也 あなもゑや 妍哉 日
安恵可 あゑか 平安 和
由恵 ゆゑ 故 万 放
寸恵毛乃 すゑもの 陶
恵 すゑ 末 万 叺

此へ井下にありしを恵の部にうつしをはりぬ とあるところに出す 待り

へ

冊之 いにしへ 古
いへ 家 万和

しへと　志止　鵐
いへいも　毛　芋
いけにへ　希冊　牲
はへりひ　八良比　白拂　和
しへのこ　乃己　胆　和
はへく　志良　被
へいくへそへ十へりゝ之のとき　方にかゝるへき事の附ハ方ノ字を定ハ宮ニかあり
とらへひと　止良比止　囚人　和

へまれ　冊れ　免葵
いでゝ　夫　出俗　日
はへく　陂　擺
はへとりくも　志　止利久毛　蠅虎
しつく　志　刀　膚
はゞく　八良
いつもの　毛乃　被枝　日
とこなへ　止己奈　法

かへ　加　樋　和
かへる　可　蛙
かへでのき　可　天乃美　鶏冠木　和
かなへ　可奈　釜　和　ミカナヘ　鼎　カナヘ
よみかへる　与三可　蘇　日
かへなり　刀　奈利　妙
かへさし　刀可　桐杖
うへ　于　釜　和　上　表　和

かへりまうし　可利末于　賽
かへのき　可乃美　栢
かへし　可刀　傳
からすなへ　加良寸奈利　鵝菊　和　カムヘリ　カヘラ
たへ　太　堪
たとへ　太止　譬　假使
なへ　奈　苗　並　十八二　万古
うへのきぬ　于　乃美奴　袍

手知は天 うちはへて 打延而 万
于刀 うらこへ 許 ウラクヘ
世乃乃己斗 やのへのこけ 柳遊 ヤナギノコケ 和
末 末ヘ三 まへつきミ 上路 日
己止を天 ことをへて 事竟而 万
天礼八 てへれば 去
安 あへきて 嗜息
安和可安 あわかへる 喜撥 和

于利八 うりはへ 当瓜 和 ウリハヘ
久津可安 くつかへる 覆
末 まへ お
己乃可登 こへのかど 小家門 古
己己呂八 こころへ 意気 日
安天 あへて 敢
安毛乃 あへもの 甕 和
安刀 あたへ 與

安末可安 あまかへる 操罷 和
左 さへ 副 万
左乃可奈 さへのかみ 道祖神 和
貴由久 ゆくへ 去經行 放 万
志利 しりへ 後
比止 ひとへ 偏

安末左 あまさへ 剰
左 さへづる 囀 和
左 さへき 佐伯
由久 ゆくへ 行方 万
志利久奈志 しりくへなは 注連 和 日
比止貴奴 ひとへきぬ 単衣 和

わ

わの字井下にありくふとあつかへるよ混し侍り ハトワトまぎらはしき

王之 いはし 鰯 和
波毋和利 はまわり 半月 和

大腸 はらわた 波良和刀 和
小腸 ほそわた 保曽和刀
わく〳〵 和久々 明
結草 かくのあは 加久乃安王 和
俵 たはら 太王良
手弱女 たわやめ 太和也女 万
浦廻 うらわ 宇良王 万
萱草 くわんざう 久王牟左于

白和香 はくわかう 波久王加于 古
茵 わらふだ 和々良
上神 かんつみわ 可牟三王
撓 たわゝ 太和々 万
撓 たわむ 太王武
守 うわ 宇王 和
暴風 のわき 乃王起 乃可世
烏芋 くわゐ 久王為 和

胃 くそわたふくろ 久曽和刀不久呂 和
山多和 やまのたわ 也末乃太王 古
理 ことわり 己止王利 万
甑帯 こしきわら 己之支和良 和
騒 さわぐ 左王久 万
背腸 みなわた 美奈王刀 日 和
湊 しわざ 志々王哉 和
居 すわる 寸王留

唐 くわら 久王伴良
辟草 まわくさ 末王刀之 和
大諸 こわだか 己王太可 辞
沫雪 あわゆき 安王由岐 日 故
大神 神酒 みわ 三王 万
皺 しわ 志王 和
鯷魚 ひしこいわし 比之己以王之 和

(は)

井下にありて具におこりてをあつめてこゝにきろし侍り

いそ 以老 宍

いてん 以天老 出羽

はいしゆ 波以之也 波陵盤 旧

そくろえ 老久刹

そくろそ 波之久首 柞

はすくそ 和 足子

はしき 波以我 帯

はしき 老之我乃久人尔

そしきのふ 伯耆国

いちふ 以老不 從

はす 波之 母

そく 老之加 朱欄 和

そくくり 老之久利 貝母 和

はすこ 波之尸 菴蘆子 和

はしこ 波之我保之 彗星

はすらほ 冊老

あまし 庭場

にてとり 仁安止利 鷄

おえふねこ 冊老刀律三 潦 和

かえふあり 尔老久奈不利 鸛鶴 和

にうえ 仁可老 縢

とりあはせ 止利安八世 闘雞 和

ちそや 知老世 褌 和

ちかふかえ 知加良加老 逆鞘

をとり 乎八利 浼

とり 尾張

にえら 仁老可 係

ふそつ 尔老 地縢 和

にそで 仁之比 燎 和

にちび 仁我八之之 賟

してきてし 止我八加我共 鰹

ときいかさし 知老世不路 道迷振

ちそやふる 奴奈老 萬

ぬなそし 和良老 章

わりそ 日延日枚 日万

王左八比 わさひ 𪀚
ゝ加老木利 かはほり 蝙蝠 和
加老知左乃木 かたちさの木 黄子
可八良 かはら 瓦
ゝ加老良与毛岐 かはらよもぎ 白蒿
ゝ加岐良於八岐 かはらおはぎ 菓 和
加岐已呂毛 かはころも 裘
可刀岐毛乃 かはきもの 厅ね衣

加老 かは 皮
加老保年 かはほね 骨蓬 和
加老為 かはゐ 砦
可老良升 かはらけ 古瓷
加老良不知 かはらふぢ 皁莢 和
加老也 かはや 廁 和 万
加刀八良 かたはら 傍
加良可之八 からかしは 草麻 和

加之老 かしは 檞柏
与岐比 よはひ 齢
太岐連女 たはれめ 遊女 和
太可八良 たかはら 篁 和
太計南老 たけなは 酣
老利 たはり 擇食
津久利加老 つくりかは 草 和
奈八天 なはて 畷 和

与岐 よは 弱
太老礼左 たはれを 風流士 万
太老不礼 たはふれ 戯
太久岐不 たくはふ 蓄
老 とは 咽
老毛乃 つはもの 兵
奈老 なは 縄
奈岐之呂 なはしろ 苗代

ウ八奈利 うはなり 淺[illegible]

ウ知者 うちは 團扇 和

ウ者毛乃 うはもの 寃 和

於者之末須 おはします 御座

久者力 くはだつ 企

久者之 くはし 委

也八良可 やはらか 柔 和

計者比 けはひ 氣

ウ者乃曾良 うはのそら 上天

ウ留八之 うるはし 麗

ウ末久波 うまくは 馬杷 和

久者 くは 鍬 和

久者不 くはふ 加

久知奈者 くちなは 蛇

末者流 まはる 廻

不者乃世岐 ふはのせき 不破関

己者以比 こはいひ 強飯 和

安八刀之 あはてし 周章

安者岌 あはく 穩 日 和

安者比 あはひ 交

安知者比 あぢはひ 味

左者 さは 多 日 古 万

左八良 さはら [illegible] 和

岌者 こはく 疎

安者 あは 粟 安房 淡

安者礼 あはれ 可憐

安波之 あはし 淡

安者世乃岌奴 あはせのきぬ 袷 和

安良八 あらはい [illegible]

左八利 さはり 障

岌者 きは 痕 和

岌八刀 きはだ 黄蘗 和

武八 ちはむ 窄 万
志八ゝ由之 しははゆし 鹹
志老寸 しはす 十二月 万
比八刀 ひはだ 檜皮
春老 すはく 溲方
春南者知 すなはち 則

（す）

加手 [illegible] 痛

三寳八 みぎは 汀
志八不寛 しはぶき 咳嗽
比八 びは 琵琶 枇杷
世八之之 せはしし 約
春老手 すはう 蘇枋 周防
末世手寸可刀 [illegible] 味粉粳 白

毛手止 [illegible] 蛛
波手天手 はうてう 庖丁
毛手久王年 はうぐわん 判官 古
毛く手止 はうと 旁人
手る へうそう 疱瘡 和
手之 へうし 標紙
里手己手 りうご 林檎 和
加良春手利 からすうり 栝樓

呂手九手 ろうさう 緑衫
波手不留 はうぶる 葬
波之 はうし 拍子
べいじう 陪従
手乃加老 へうのかは 豹皮 於
里手太手 りうたう 龍膽
乎手止 をうと 吏 和
可手八之 くうげ 罄香

首 かうべ 加テ 和
寄居子 かうな 加ナ宇 和
被 かうふる 加テ不留 万
昨夜 よべ 与テ 万
陵王 れうわう 礼テ王テ 万
奏 そうさう 呂テ宇奈
内教坊 ないけうばう 奈以計テ波テ
弟 おとうと 於止テ止

上野 かうづけ 加テ計
冠 かうぶり 加テ不利
格子 かうし 加テ之 和
画紙 たうかみ 太テ加三
寮 れう 礼テ
仕奉 つかうまつる 可テ末留 万
陵苕 のうせん ノウセン 乃世テ 和
黒方 くろばう 久呂波テ

蔵人 くらうど 久良テ止
漸 やうやう 世テ々
大夫 まうちきみ 末テ知支三 万
儲 まうけ 末テ計
興 けう 計テ
狛人 こまうど 己末テ止
女公 こじうとめ 己之テ止女 和
銚子 てうし 天テ之

八日 やうか 世テ可
真人 まうと 末良テ止
遊 まうしげ 末テ須
申 まうし 末テ
紅梅 こうばい 己テ者以 和
兄人 こじうと 己之テ止 和
手水 てうづ 天テ
相人 さうにん 左テ尓牟

左于不 さうぶ 菖蒲 和

左于ぅ さうじ 精進

左于比 さうび 薔薇 古

志カ于 しやうび 襪 和

志于気年 しやうけん 従云

世于止 せうと 兄

世于曽己 せうそこ 消息

す以世于 すいせう 水精

左于之 さうし 曹司

佐于之 さうし 草紙

女京于 めうめう [illegible]猫 和

志于止 しうと 舅 和

比于可 ひうが 日向

世于加于之 せうかうじ 小柑子

世于兄于 せうえう 逍遥

（ふ）

以止由不 いとゆふ 遊糸

波年左于 はんざふ 匜 和

老不利 とふり 祓頭

王良不刀 わらふだ 円座 和

可良す安不美 からすあふぎ 射干 和

加不可 かふか 甲賀

大不 たふ 塔

波冊不 はにふ 埴生

老未由不 えまゆふ 淡木綿 万

止不良不 とふらふ 訪帰

可什呂不 かげろふ 蜻蛉 和 日

加不知 かふち 河内 和

加不可于 かふかう 甲香

太不止之 たふとし 貴 万

たふる 太不留 倒斃
[?]ふし 連不之 獵師
つめのこふ 女乃巳不 爪甲 和
のふ 乃不 納
まんえふしふ 末牟兄不志不 万葉集
けふのこほり 計不乃已本利 校布郡
けふそく 計不曽久 脇息
[?]くろふ 不久呂不 象来 和

たふれこゝろ 太不礼己ゝ呂 狂心 日
[?]ふのかみ 留不乃可三 涼上
か[?]ふつき 手[?]不[?]
おふち 於不知 大内 和
けふ 計不 今日
けふり 計不利 煙
けふし 計不乃之 嚊 和
ごえふのまつ 巳兄不乃末 五葉松

こふ 巳不 國府
てふ 天不 蝶
あふち 安不知 樗
あふこ 安不巳 楞
あふひ 安不比 葵
たふひ? 左不良比 [?]
さふらひ 安乃不 [?] 結
こ[?]のふ 由不可本 昨日
ゆふかほ 夕顔

こふ 巳不 鵠 和
あこふ 安者不 [?]回 日
あふり 安不利 障泥 和
あふぎ 安不[?] 扇
さふらふ 左不良不 [?]
さんふ 安牟刀不 [?]
よふ 由不 公[?]
ゆふべ 由不[?] 夕
ゆふさ 由不[?] 結[?] 和 万

由未可不豪之 ゆきかふみち 往交道 志不之年 しふしん 执ん
毛不 もふ 思 万

む

此条ムトウとまぎらはしきをあつめたり凡ウ文字ム文字よみあやまりて混ずるハトヘトある字ぞくうけまゐものの二字混てうられえし上のムウともに同とふりかへくぬるむかしのやうになるなり今此さくいをみくこゝにあらましと混さと

むべ 郁子 和 諾 変　むまうひ 圃人 和
むまや 厩 和　むまご 孫 和
うば 祖母　うばそく 優婆塞

うばら 荊　うばふ 奪
うま 馬　うまる 生
うまし 旨 日　うまひと 君子 日
うめ 梅 万　うもれぎ 埋木

うむノ別

此条うとむとかよふことあると
むなぎ 鰻魚　むこぎ 五加木
むしろ 莚 万

うぬノ別

ぬえ 鵺　うるし 漆

うし 大人 日

〔むトぬト通〕ちぬのうみ 珍海 万

さぬき 讃岐

〔むトもト通〕はも 鱧(ハモ) ねもごろ 懃(子ゴロ) 万

おほなむちのみこと 大己貴命(オホナンチ)

みむろやま 三諸山・もぐる [illegible]

もやひ 舫(モヤヒ)

〔むトふト通〕ふぐしう [illegible]

〔ふトもト通〕さもらふ 侍(サモラフ)

〔へトめト通〕[illegible] [illegible]

うねめ 采女(ウ子ヘ) うまなへて [illegible]

むへ 宜 日 くるめき 反轉(クルヘキ) 万

しりくめなは 尻久米縄(シリクメナハ) すべらぎ 天皇(スメラギ スメロギ)

〔めトまル〕〔へ字〕なへて 並 万 うく 浮

〔むニまぶ〕[illegible] [illegible] [illegible]

[illegible] かかふり 冠

かうふる 蒙　かたつふり 蝸牛
うつふく 頌　かなしふ 悲
たはれ 戯　たのしふ 楽
ねふりのき 合歓　ねふる 眠
ねふる 舐 十ムル　うかふ 浮
ふすふる 若　けふり 煙
けふつて 鵂　えらふ 撰
さつふ 伺非　さふらひ 侍

もとらふ 荒怠 此廿二字中既見乃略
みだりはひ いなひ 辞　あらひ 忠
さとのひ 楽　うかひ 浮
うれしひ 悠遊 日　くるしひ 苦
えらひ 撰　さけひ 號
をとなふ たふる 仆斃
あふり 淖泥　あふく 元翁
あつく 給　あふのく 給

あふひ　葵

みョうじ部

かうぐい　髪搔　かうしたら　鈸

かうぎは　髪際　かうのとの　鄭後

たくうがみ　畳紙　てうづ　手水

みョうじヵ部

かもおん　猪臣　かんべ　神戸

きんづけ　上野　きんづかさ　上総

なう部

なうぶん　仲文　さうぶむ　貞文

きうむとし　公利　きんなふ　公任

（じ）

いとつじ　羊躑躅　いぼじり　螳螂

いへとじ　主人妻　いのちぢし　狭

いろざさ　忌　いしらぢれ　弦

いそじ　萩イモガラ　ろうして　論

ろくぢつうん　六十巻　あふかうじ　花柑子

きんじやう　繁昌　きうさうじ　紫殺場

きじのてうえ　樋立役　はしとみ　半蔀

きじく　頑　きしうみ　蓁

にじ 虹 ほういはじめ 布衣始
ゑいじ 嬰児 稚子 どんじき 屯食
ざういんじ 遊子 とうじみ 灯心
ちりにまじはる 同塵 ちやうぢやく 打擲
ちじのへう 致仕表 あんじ 胭附
るいじ 類字 とうじ 項(ウナジ)
そのこうづま 磯叔盧宮
されども 後衰 とうじ 擔魚

ほうぢやう 放生 かうしんまち 庚申待
かうじ 麹 講師 かうこじ 高巾子
かものりんじまつり 賀茂臨時祭
よつじ 四辻 たいかうじ 大柑子
たかぶやう 鷹逝 ぶんじやく 緝冊
なかまじる 塲交 れいじん 伶人
れんじ 櫺(レンジ) れうじ 療治
りやうじ 領 そうじて 惣

そうじやう 僧正　つむじ 旋毛 辻
つまはじき 弾指　はじかみ 薑
はいじん 俳人　はんぎやうじ [illegible]す
らいじ 儡子　らんぎやうい 紫奈結
むじな 貉　ぐんじて 溷る
ぐじ 蜘烟　やんじ 院司
おらじぬ 旅推　おぼしこと 思ふ事
なんじやく 温柔　なんじやう 喜たる

かじかのむすめ 張　くわうじく 絃桿
くじく 蹇　くじる 挑
やうせんじ 永宣旨　やうじ 楊枝
やうぎやう 袁性　まがひもの 䏊
ましげたまね 非負醜　まじない 呪
まにぎやう 寒了要　まじらひ 交
まじはる 交 執 接　まんぎよ 見說
けじ 綴結　けうさうじ 假粧

げじく　蚰蜒　ふじ　富士
こんがうじ　金剛寺　こうじ　犢
こうじはて　困　こうじ　柑子
えんじ　燕脂　えんのぎやうじや　役行者
てんじやう　天井　殿上　てんぢく　天竺
あるじ　主　あきぢひ　淸肩
あじろ　網代　あじやり　阿闍梨
さうじみ　正身　ざうじ　曹司

さじおろして　請下　さくじり　鑴
さきつとし　一年　さへぢやう　文状
ぎをんしやうじや　祇薗精舎
きやうじやう　京上　きやうじ　香匙
ゆとうもじ　湯桶文字　めはじき　茺蔚
めうじ　牝牛　めまじろき　瞬
みなかぶし　疵身　みをつくし　澪標
みやうじ　名字　かうじふ　縕

こじうりくちかい　廻
しうじゆ　塩深
じちようのほし　七曜星
じちいき　日域
じがい　自害
しうじて　総而
しうじ　不如
じしやく　叙爵
じよさい　如在
じだい　地代
じたい　辞退
じつしやう　実正
じもんじ　紆
じかい　寺門
じんせい　仁政
じんこう　人口

じでう　十帖
じうもつ　什物
じやうらう　上臈
じやうゐ　譲位
じやうい　上意
じやうさんみ　正三位
じやくろ　柘榴
じやうし　鎖
じてう　仕丁
じきろう　食籠
じゆず　珠数
しじんさうおう　四神相応
じまひて　手追
じつのひ　自縁日
じゆる　縮
じゆら　繊

すゞりがひ　硯　　ずさうし　圖畫師

すいげつ　水月　　すし　濤士

すゞま　絃鴨　　ひなすいでて　映月

ひつじ　羊　未　　ひつじぐさ　白鮮

ひつじさる　坤　　びんらうじ　檳榔子

ひじきも　鹿角菜　　もうじ　盲神

もくげんじ　木槵子　　ものおぢ　恐

せいじ　青磁　　せいちやう　西浄

せんじよ　前祖　　せんじがき　宣旨書

じやうぎん　[illegible]

（ぢ）

いとちぢ　縒　　いそぢ　五十ぢ

いかけぢのたち　沃懸地太刀

いやしのおほぢ　貧税　　いさぢ　泣　血泣

そとのおほぢ　外祖父　　はからぢ　外甥

をぢ　恥　慙愧　　をぢなし　恥通

へいぢ　平地　　とぢつける　織益

とぢむる　歴日
ぢぢやう　繝
とみのふぢ　富士嶺
ちりひぢ　塵泥
ぢっい　持戒
ぢんかう　沉香
ぢうさん　重患
ぢびやう　持病
ぢす　帙チツ
とぢ　伯父
とぢて　悍
かぞちさ　萱子草
かうふぢ　萱英
かぢ　加持　梶　揖
かぢぢやん　和炭
かうひぢ　無跡

かうぢやう　定考
うみもぢ　髪文字
よぢのぼる　攀上
きふぢぢ　舟路
だうぢやう　道場
たいぢ　築地
ついなのぢりく　退儺除目
ふぢけびと　俳人
ぶんぢ　汝　爾
ぶあぐぢ　舳艫
おかうぢ　大神氏
おとうぢ　兩揖
くんぢく　巻軸
くぢら　鯨　鯢
くぢぢり　園
くぢう　宮中

くるまのとぢ 車榻　まんぢう 饅頭
ふぢのえん 藤宴　ふぢつま 葉
ことぢ 柱徽　こふぢ 小路
こしぢ 越路　あぢ 鰺鴷味
あぢむら 鴷噪　あぢきなう 無端
あぢはひ 能斎　あぢはひ 味饗
あぢさけ 味酒　あぢまめ 藊豆
あぢまさ 檳榔　あぢさゐ 紫陽花

あさぢふ 浅茅生　さうぢ 掃除
きくとぢ 纐纈　きやうぢ 京師
めとぢて 閉目　めぢ 目路
えぢらひ 孑孒　みくぢ 御鬮
しほぢ 塩路　ひぢ 泥去 肘臂
ひぢしき 訓　ひぢき 括末
ひぢかさあめ 肘笠雨　ひやうぢやう 評定
もぢ 戻捩綟　もぢずり 綟摺

をみなぐさ　女郎花　もみぢ　紅葉
すぢかひぢ　違路　をぢかへし　物瀉子

（ず）

いろさおもんど　定立　いけどれ　生會
いすゞがは　五十鈴川　をひどすみ　揚留
をんど　苦　をんぢぶ　若遠
をもどゑ　萬末　齋　よりあへども　ふえ飯
をこしずみ　真炭　たくどむ　佇立　久・

たくどいろぼく　田舊乙付
つけどまひ　属弾　かどへ　准標
うじ　鴻流　うずめく　渋
うじさくら　雲珠櫻　ねどまひ　坐作
ねどくと　居偃　こうどすみ　不徴
こずゑ　梢抓　えびへど　敵不羅
えいかんじ　敵不回諱　えど　不得
ぶゆうまどい　紛乱　きまどうせじ　班存

ゆはず　弭　　ゆんづゑ　弓束　弓杖

みなぎり　水激沫　　みなぎらふ　水溺經

みのふぢり　篠丈掴　　まやうず　よよ

ゑいど　映　　ゑんずる　怨

ゑんず　怨　　えとえだ　箸

えだ　百古　駒　　だだ　珠敷

ずつこ　意華　　ずずき　歟

もくえ　萑　　すずか　鈴鹿

（いづ）

いろいづ　鐫　　いろいづ　見渡るか

いへといづる　出家　　いちづ　一途

いらづち　霹　　いらづらり　帳帥

いつきかしづく　寵愛　　いづのちわき　稜威乃別

いづのめり　飯緒法　　いづる　出

いづら　幾許等　　いさづる　血泣　憂泣

いしづひ　石伎　　いきづひ　伊伎伎

なづむ 滞合 なづる 和撫
なづらひ 靡 蕩をせづらひ 涇沛
みいづみ 漆 やづえ 末
やづ氣あそ 縫猿 かげづき 清気付
やうづき 山茨菰 ゐんづき 海棠
すゑづま 末妻 どづく 座
ちりづか 芝塚 ぬかづく 叩頭
とゞづめ 古伝 とゞづる 悄

をのづから 自 をしまづき 几案
まうづ 萬状 まうびつらう 唐京海
よづらひ 炊累 まきづくゑ 紙机
かづきめ 潜女 かづらひ 假名遣
かなづる 奏曲 かうえづき 殼嘔
くんづき 神宮 かなづち 錸
かしづく 冊祠 かせづえ 廉杖 駄
よめづらひ 倭 きひのこづ 黍米糸

たづさふ 携　たづゝえ 手杖
さゞげ 鶚　たまかづら 玉葛
そうづ 僧都　つゞらをり 九折
づかへ 短笛　ながづ 席
づゞ海 芝蘭　なにはづ 難波津
なづな 薺　なづき 脳
なづむ 泥　なづく 号
なまづ 鯰 歴易　うるふづき 閏月

うづくまる 蹲踞　うづたかし 嵬堆
うづき 卯月　うなづく 低頭
ゐづゝ 井筒　ゐのこづち 牛膝
ゐでのかはづ 井手蛙　のづかさ 丘陵
おづけづり 小歌梳　おきいづる 起出
おほひのきづな 出綵　おもづら 羈
くづ 屑　くづをる 窮居
くゞづさ 内競察　まづし 貧

ましみづ 真清水 けづる 梳
ふでづかひ 筆使 ふづくゑ 文案
こづゑ 木梢 こんぢ 懸
こゝろづかひ 心遣 ていかづら 絡石
てまづさへぶる 手先遮 あはづの 粟津野
あをかづら 防已 あをづけ 青漬
あづまや 四阿 あづさ 梓
あづち 射垛 あさづくひ 朝月日

あひづ 相圖 さいづち 樫槌
さねかづら 真葛 きぬかづき 衣被
きさづき 忌月 ゆひづける 結付
ゆづか 弣 ゆんづゑ 弓杖
ゆづる 讓 ゆづゑ 杖
ゆづのつまぐし 湯津爪櫛 ゆふづゝ 長庚
ゆするづき 泔器 めとをづき 嚙付
めづる 愛 めづらし 珍

みとづらし　漂滯　みだく　罔系
みづかね　鉛汞　みだあひ　濛
みづうみ　湖　みづのえ　壬
みづち　虬　みづし　御厨子
みづらゆひて　髻結　みづくろひ　身繕
みづがき　瑞籬　しなづけ　韶
したうづ　襪子　しづ　賎
しづり　閑靜　しづまりたまふ　坐之

しづえ　沈枝　下枝　しもづかへ　下仕
ゆづる　絃弭　ひいづる　秀逸
ひづめ　蹄　びんづら　鬟
むこづふ　腎　もとづく　索
もづく　海雲
尤子(リコハリ)の外(ホカ)ふれまぎれし假名(カナ)あり
いトゆ　いう　ゆう　ろトら　ろう　らう　はトほ　はう　ほう　へトひ　へう　ひう
ひやう　とトた　とう　たう　とトわ　とう　わう　かトこ　かう　こう　よト

やよえ　えう　迄　まで　まで　さへ　さへ　に　に
孫々　ても　とも　ても　ても　まで　のみ　ちや
いくいんなど　位ゝ　是ゝ　めり　今ゝ　皮ゝ
沢ゝと　宗いゝ　傍ゝ　なし

いだり　断　いやり　是法
いへぢし　家亭子　いちやう　銀杏
いちらう　一臈　いぬゑんだう　鹿藿
いぬのはう　戌方　いうやう　是訳

いらし　衣椸　いがたうめ　伊賀專女
いきうり　悉儒疵　いさうらふ　披籌歌
いつはり　偽惠古　いつかう　一向　一行
いつちやう　一張　一挺　いとふさふ　猶
いとやうふ　適逐　いのちなかふ　存命
いかんやうだう　醫陰寿　いくきり　義持
いくさかのふ　振旅　いやまふ　敬　袴　茶
いかやう　今様　いよ　云

いこふ　休息　いざよふ月　偃月
いさかふ　闘諍　いざなふ　誘引
いきほひまうに　威猛　いきどほり　憤懣
いひとゝろ　匂　云経　いひしらふ　云拵
いひまろひ　いひならふ　云習
ゐとり　踞歌　ゐあり　句端
ゐもじて　帰　ゐぜる　累
ゐるさう　縄紗　ゐり　樓落

はいまう　歯齦　はやさう　飛蝗
はすのはひ　蓬　はうちやく　無人
はやしやう　八宵　はなゆきやく　花夕皁
はなしらふ　碎手花　はなもとをて　颯
はなかうじ　花柑子　はんぞう　擬
はんじやう　繁昌　ばう　枠
はうむる　葬　はうちやう　包丁
はうさう　疱瘡　ばうれい　傍例

はうだい 傍輩 はうはん 芳飯
はまゆふ 濱木綿 はふく 這て
はふこ 平生 天低 はうとり 嗷る
はふむし 昆虫 はうらつ 放埒
はふり 祝祠 はきのごふ 掃拭
はひ 灰 はひあひぐすり 灰紺合
はびこる 蔓 はまいる 蚌之珠
にようゐん 女院 にようくわん 女官

にようばう 女房 につさう 入道
にかふ 荷擔 にかい 色二
にんわうゑ 仁王会 かいさう 浩壹
ほしゆべて 方曲 ほいてふ 風蝶
ほけふかる 佛唱 ほそう 細
ほたるれいめぐる 螢なる昇
ほつきやう 法橋 ほんしやう 本性
ほつくう 法空 ほうわう 鳳凰

ほいしじめ 布衣始 ほうし 法師
ほうもん 法文 ほけづき 法花付
ほうえ 法衣 ほうれい 法令
ほうらいかうぢやうしおいだう 蓬莱変
ほうぞて 棖 ぼうし 帽子
ほうせんくわ 鳳仙花 ほうぼく 厚朴
ほうづき 鬼灯 ほう 頬
ほうこう 奉公 ほうび 褒美

別瀛

ほうおん 報恩 ほうご 反故
ほけきやう 法花経 ほうかる 居
ほとゝぎす 唱星 へいしやう 滑稽
へいほう 兵法 へうがう 同じ
べうちやう 別納 へつらふ 諂使
へんくわ 変化 べうべう 渺々
べうえい 苗裔 へうほうゑ 表補絵
へうし 表紙 ほどへて 程経

どゞふ 蟾蜍　どてうじかふ 尖途方
どぢやう 土鰌　どうひ 多慮紀
どうみせうやう 多言饒舌撰　どうたうご 蔵口
どてく 土手 象　どうくる 多通
どうりのとをか 十遍荒　どうとかつる 篭絡
どうしく 鼕々　どうがり 冬瓜（カモウリ）
どうふ 豆腐　どうちうまくら 旅中ね
どうまやう 銃領　どうじん 燒臺

どうろう 灯籠　どうしん 灯心
どうらんやう 遠頃者　どう 動
どうきん 同ん　どうかく 胴張
どうくさやうとう 東京錦　どうめん 洞穴
どうで 兎也　どのあやし 當出
どう 嗚　どう 同
荒どしかふ 失体　どさくさぶ 坂时
どさくにかふ 打附　どきやう 読経

とみのこうぢ 冨小路　とうおんあ 唐音飲
とびら 同扉　とびやうし 銅拍子
とひく 解叔　ともおんよ 引唱
ちとせがよ 千年緒　ちかふ 遠
ぢんかう 沈香　ちうじやく 鍮石
ちやうらう 長老　ちやうちん 挑灯
ちやうかうし 長東道使
ちやうたい 頂戴　ちやう 廰

つうりん 了簡　つんつう 能縁
つゝしのまつりのてうがく 綵麻祭調楽
つうかう 能猛　つうごう 抹擒
つくよふのくわんさん 六濤男友人
はいかう 澱紋　ふらう 流浪
せうかふ 書経　せい 性
せうかうち 元河内　せうかさと 元垣下
さこふのちう 紹労　せうこうぢ 押小路

をしやう 和尚　をしたゞみ 憎拈
をうたう 於営　をうし(?) 雅(?) 幼子
をんぞうし 王家之(?) 御曹司　をうてい 溢(?) 計
をりのどがう 和合(?) 龍(?)　をれもう 本音(?)
をうう 王　をうこぶ 王命婦(?)
をうさつ 豪家　かいくづ 階下(?)
かうちうをう 海龍王　かいぶう 海棠
かいつくろふ 刷　かいがう 開闔

かたせうよう 川逍遥　かくうそ 糀(?)
かくれ 背(?)　ふのかう 龜甲
かうこようけ [illegible]　をかうかみ(?) 緩命
かうさいまうけ 棲(?)　かよふ 勾引
かなう 顎(?)　かりのかし 縫(?) 衣
かりあて 特襖　かよふ 加家殺布(?)
かくさう 香勾引　かよふ 娶(?) 廷(?)
かよう 芳(?) の書(?)　かうさう 方人

かたのせうしやう 交野少将
かつらふ 猎偕 かものまくひ 肩百乱
かりやうびんが 迦陵頻伽 かうずい 投募
かなひ 叶 稼合偕 かあいさぶ 賓娘
かうすあつぎ 射丁 かうし 荸菓
かうらと 捷 かうして 辛苦
かうじ 神変 かうねし 神ら
かんがへる 勘考 かみやがみ 紙屋紙

かうごれうこ 香壷匣 かうのもひつ 香辛櫃
かうぐ 香具 かうざい 香鋲
かう 甲 かうい 紫綺
かうい 文衣 かうしん 庚申
かうぢやう 定考 かうしく 孝行
かうひ 考妣 かうぐへ 罰 勘當
かうじ 麹 勘支 かうじ 柑子
かうし 格子 かうらん 高欄

かうじ　柑子　　かなまり　鋺
かける　翔　　かたくな　強張
かみそり　剃刀　　かづら　髪末
かむてうさん　廣陵茂　　からゐ　高麗
かうち　河内　　かうかのき　合歡木
かこか　家居士　　かはほり　蝙蝠
かうかいぢとく　　かはせみ　翡翠
かくてふだ上大夫伏　　かはづ　紅紅

かけ　かるゑ家　　がまかう　陰綱
かげろふ　蜻蛉　　かふ　飼　合
かふ　買　沽　　かはる　更　替　代
かはうを　鱟魚　　かはせみ　蛝蜩
かをる　郁　芬　芳　　かをご　薫
かたき　揣　　かうぢ　麹
かこふ　拵　囲　　かさぬふ　笠縫　云
かさのかなむらまちぎみ　笠金村大夫人麿

かめのかふ　亀甲　　かぜのまへり　風前

かものりんじのまつり　　賀茂臨時祭

かずまうつき　五月　　よろづ　徒侍

よばふ　呼喚　　よりあふ　寄合

よりそふ　寄添　　よろひまうけ　装役

よそほひ　粧裝　　よそほふ　粧衣

よならひ　世習　　ようと　用途

ようい　用意　　ようがん　容顔

ようでう　窈窕　　ようち　幼稚

ようせう　幼少　　ようせずば　若不

ようす　要須　　ようのいる　要入

よゐのそう　夜居僧　　よこたふ　横

よそまうと　異客　　よもぎふ　蓬生

だいしやうじのたうの　　大庫子猫

だいじやうゑ　大嘗会　　だいがくれう　大学寮

たいらう　大廊　　たかうな　笋

たかぢやう 鷹匠　たゞよふ 漂蕩
たゝかふ 戦　たゞよふ 泛
たいたう 允塔　たうがらし 蕃椒
たづさふ 携　たうたう 滔々
たつけ 裁付　たうぢやう 刀場
たうめい 燈明　たうとく 樊[illegible]
たうくわう 幰補綴　たうい 擣衣
たうせん 精舎禅　たうだい 當代

たいりん 風車　たゝきまる 鶺鴒
たいのつち 粉錫　たいし 唐紙
たまれつふり 玉屁　たけかへふへ 竹川筏
たけのこのふ 竹笙生　たけふ 竹村
たのもし 来る　たゝみる 疊椒列
たうせんき 壕男女　たうかん 刀銘女
たのみもし 多家字　たあふ 跟婦
たひらか 平均　たひかり 民民河泉

れいはうふ 違例　れいやう 靈羊
れうわう 陵王　れうし 獵師 寮紙
れうし 料紙　れうじ 聊尓
れうだうる 紙　れうぢ 療治
れうり 料理　れうもん 寮門
れうほう 令法　れうけん 諒款
れわかるあめ 漣漪海　るがし 十河
れんさやし 蓮葉　れんりよし 蓮生

そうきやう 惣領　そうじて 惣る
そうもと 奏　そうび 僧衫
そうざう 増坊　そうずう 僧寺
そうしやう 僧正　そうがう 僧綱
そうしやう 宗匠　そうべう 宗廟
ぞうちる 雑説　ぞうねう 雑答
ぞうすい 雑炊　そのふ 苑生
そくらし 續労　そふ 添　副　傍

たとのもい 吝嗇　たかむり 篁
たうだつ（スウブ）塔　たりまじ 絡眞布
たくはへ 貯蓄　たぐひ 比類
たくなり 焼香煙　たまふ 賜給
そこなふ 残害　そゝり 蹣扣
そむく 辯　そせいなし 蘇生法師
ついたう 追討　つどふ 湊集会
つゞまやか 壹囊束

つかふ 仕役吏　つかまつる 奉仕
つれぐ 嵩結番　つみどり 裹箱
つくろふ 繕　つくのふ 償
つみなふ 誅　つがふ 番異
つかふ 婢奴　つかふ 遣
つんぶり 身のかう　つかひ人 年三
つかもち 繞援　つかしき 忍
つかえし 繞列　つかざる 号

がいきようむさう　内苑坊　かざかみ　級
かぶかうふ　名負　かぶでう　紡紫
かつしもの　直物　かつかう　仲人
がくしやう　学窓　がつかう　脈款
がうそう　綱豆　かつふ　習
かうらい　高札　かうふ　進儀
がくそう　紛糸　がくかく　活
かい　兵　がくしん　準

らいだう　礼堂　らいかう　来迎
らいせう　来生　らいまう　頼綾
らうゆふ　浪浩　らんしやう　濫觴
らんせう　蘭首　らんざう　乱臭
らんたう　卵塔　らし　羅紗竹
らし　ヲ　らうしだい　臈之次
らうげつ　臘月　らうばい　臘梅
らうらう　臘ゝ　らうそく　蝋燭

らうれう 粮料　らうじなう 郎從
らうかうき 粮　らうろう 牢籠
らうさい 癆瘵　らうけ 老氣
らうすい 老衰　らうもう 老耄
らうえいさう 胡頽葉　らくやう 洛陽
らくえう 落葉　むばふ 奪
むつのさう 六月菖蒲
むべ 郁子　むべ 宜從

むかふ 向對　むかひやき 向燒
むかひづて 向飛脚　むかひざう 向後
むかひ 迎　むかづく 轟
むかしかうらうきみ 椋梁之官
むぐらふ 葎生　むまとひかつ 扣馬
むまやの 冥物　むまかぶり 味添
むさきさうふ 平伏　ういきやう 茴香
うちこかもと 歐外　うるう 潤

うらぶ　寂　　うかふ　寂ゟ布
うまふる　熱　　うれなし　花
うんぞうし　紅粉粥　　うけあい　受質
うけぶ　受答　　うしろめたし　彰疫
ゐさい　維解　遠　　ゐまとし　孫實
ゐくわう（井クハウ）　威光　　ゐしやうさし　癒瘡
ゐねうし　囲繞　　ゐんろうし　印籠
ゐふうし　威風　　のらふ　野道

のぞむる　延　　のぞひ　望網
のたまふ　令色　　のたまはく　曰云
のしさし　農桑　　のたふ　拭
おそまず　山嶽　　おほいさうさん　大史
おやべしん　親普請　　おかもと　縁
おやもどり　滋敷　　おやかうぢ　大猪
おやかぶし　太恐　　おぼゆる　溺
おそりふ　霧疲　　おとこすがた　男姿

おくるみ 襃
おもてうど 以綱交
おんやうれう 陰陽寮
おんみやうじ 陰陽師
おんまう 悲臭
おんぞうし 御曹子
おんぞうし 吉外
おし 唖子
おしか 姫
おうご 擁護
おうせう 趣撞
おうしう 生
おうらう 擡
おひもどふ 老色
おびゆる 脅
おりうこし 室却

くるわぶり 貝斗
くゑんざう 荒字
くわさいつうれい 落漆
くわいちあるき 薩摩
くわうみやうくわうごう 光明皇后
くゑんぐゑし 官倍
くゑしつかゑし 荒涼
くわりやう 過料
くわいがう 会合
くわいまう 回章
くわいらう 老
くわいはう 懐抱
くわいかく 果絶
くわんぜし 京外
くるすのさし 栗栖庄

くるまのをし 轂　くるわ 郭
くようのほし 九曜星　くだくだし 細碎
くれまどふ 暮惑　ぐしつきて 切付
くのえかう 薫衣香　くさのかう 芸
くみあふ 組合　やとふ 雇
やらし 疵扇　やらふ 擯逐
やうせんし 永嘉　やうかい 新向
やしらく 接骨　やうじ 楊枝

やれきの 振物　やりぞん 振舞
やまぶし 山伏　やくし 徴
やゝし 漸　やうやく 稍漸
やまこだし 高陸　まいとし 毎年
まどふ 迷惑　ヨフ　またうど 全人
まゆふ 真麻木綿　まつろふ 吹鳴
まつかう 真向　まらうと 客人
まんぢう 饅頭　まうけ 儲設

まうちぎみ　大臣　まうと　真人
まうちきんだち　群臣　まうのぼる　参上
まうしこ　来本　まうしけり　請丞
まうしひ　東對　まうしもと　申云
まうしたまふ　内附　まうしとく　申証
まうしてまうさく　白云　敬曰　往曰
まうち　樽　まうのかぎを　真握波積
まうさおもと　藤生　まうける　交継

ますらおしれ　真藤楊落
けいそげ　雞冠花　けいまう　口相
けいかう　刑部　けいのう　藝能
けうひ　氣　げかう　下向
げんじやう　賢聖　けんがう　憲法
けんざう　聖經　けじのかぎさ　猶侍升
けうし　孝子　けうやう　孝養
けうさうじ　經粧　けうとれ　気疎

けうとく 物忌 けうがう 校合
げうさう 澆漓 けうちう 叫喚
けふこのへ 今日九重 けうさう 騒然
げうさう [illegible] げうぎやう 現形
けうやう 經粧 けうやう 下習
ふいぐふ 講 ふぢふの 菊生能
ありゞふ 舊旧 ふるきのあふち 古木樗
ふうひ [illegible] ふうふ 振

ふかうし 不孝 ふようし 不要
ふかうし 不肖 ぶかうし [illegible]
ぶがうし 豪家 ぐんがうし 緑豆
ふうすゐ 荷飲 ふうろう 象
ふうさう 河縁 ぬけうし ふうぞう
ふうずる 封 ふうそう 葬
ふでうし 不定 ふるうし 振
ごようばうへ [illegible] こづうへ 木縛

こらうでんけ　古老伝家　こんがうじ　金剛寺

こう　鵠　劫　こうろくわん　鴻臚館

こうろうでん　後涼殿　こうきい　弘徽

こうくわうよくやう　香花緑葉

ごう　業　ごうじやう　囲

こうずい　洪水　こうぎよ　薨御

こうがう　江湖　こう　講

このかべ　兄部　このしやう　好

こくさうめん　穀金　こふ　国府

こふ　乞請恋　こふぢ（コンヂ）　小路

こうきよ　巨　こてふ　胡蝶　未云

こでうてい　小野篁　ごでうふ　濃鴨

こぎやうぐさ　蓮花草　こうぼうぶ　希

えいよう　英雄　えいやう　英耀

えよう　依用　えようらう（ヲ）　仕丁

えらぶ　撰　えんゆう　宴遊

えんだう　縁乃　えんぎやう　遠行
えんこう　猿猴　えんせう　塩硝
えびかう　衣被香　てう　牒
でう　帖　てうず　手水
てうし　銚子　ちやうず　洞
てうかう　[illegible]　てうあい　寵愛
てうてい　朝廷　てうらう　嘲哢
てうばう　眺望　てうすがう　趙子昂

あとがかり　徒　あざ　字
あんかう　鮟鱇　あしらひ　押収
あやうし　危　あまあふ　和目
あふ　逢会　あふみ　近江
あふくま　阿武隈　あふり　奥寄
あふご　扬　あふで　佶
あふぎさまる　[illegible]目眼　あふぎ　扇
あふり　障泥　あふむ　鸚鵡

あふち 楝　あふひ 葵
さうが 唱歌　さうじ 障子
さうにん 相人　さうぶれん 想夫憐
さうのこと 箏　さうざうし [illegible]
さうし 草子　ざうり 草履
さうぶ 菖蒲　さうさい 草菜
さうもぐさ 木香　さうきせい 桑寄生
さうび 薔薇　ざうよう 雑用

ざうし 曹司　さうぢ 掃除
さうじやうす 請下　ざうえい 造営
ざうげん 讒言　ざうぶつ [illegible]
さうれい 葬礼　ざうぐし 寂
さうそく 早速　さうおう [illegible]
さうあい 草鞋　さうおくいう [illegible]
さうたく [illegible]　さうらふ 競
さうつうでん [illegible]　さうに 急

きうよう 急用　きうくつ 窮屈
きうかう 舊好　きうだい 及第
きのふ 昨日　きそふ 競
ききやう 歸京　ぎやうがう 行幸
きやうだい 鏡臺　きやうだい 兄弟
きやうじん 狂人　きやうがい 境界
きやうこう 向後　ききやう 桔梗
きらふ 踈　ゆるふ 寛 緩

ゆう〱 悠々　ゆたか 優
ゆうげん 幽玄　ゆうれい 幽靈
ゆうそく 有職　ゆうしや 勇者
ゆうきよう 遊興　ゆふべ 夕 晩
ゆうづく 出處　ゆふだち 夕立 白雨
ゆふがほ 夕顔　ゆうづう 融通
めうでう 乃經　めんだう 面倒
めんでう 面動　めうご 聲牛

めおと 女夫 みちやう 口帳
みやうゑし 明恵法師 みやうてうし 命鳥
みやうがし 冥加 みやうじ 名字
しばふ 芝生 しゆうし 宗以
しようしやう 称名・しよくしまし 焼亡
しやうじ 祝言 しんしやう 神辰
しんさう 心操 しんぶつさうし 真物草
じんこう 人口 しやう 称

しゆく 宿債 しゆいゑん 宿縁
しやうご 称讃 しやうじく 粧軸
しやうだいはし 正大寺 しやうゆ 醤油
しやうめん 漿粉・しやうじ 障子
しやうぞい 商賈 しやうこし 伺佐
しやうし 仕丁 しやうよし 上意書
しゆしやうし 殊勝 ししやう 師匠
ぢんあう 沈香 ひやうしのかい 豹皮

ひやうたん　瓢箪　びらうげ　檳榔毛
びんばふ　貧乏　ひやうへ　兵衛
ひやうぢやう　評定　ひけう　比興
ばうし　帽子　ばうばう　毛以
せう　兄鸞・ぜう　白炭
せう　悉稼尉　せうしやう　少将
せうてい　撒・疋　せうそく　消息
せうよう　逍遥　せうじ　蕭寺

てうかう　焼香　てうなう　氷嚢
てういせい　手穏　すいりやう　推量
てういが　龍猛　てうかし　傲法
てうちやう　打遠・すぢやうど　蒲陽子
てふ　蝶　てふ　淵敷
すまふ　スマウ　相撲　てふ　吸
てうあれ　真積　てうまう　受領
てういさい　獨和

去名假名

光(イテヤ) 万　繁(イミシク)　佳養 巳　宛(イト) 太日

所謂(イヒケン)　宅 古　郭(イニカシ) 拄　集(イル)　鄙風(イナカビタル)

今世(イマヤウ)　漁火(イサリビ)　徒(イタツラ)　弥(イトド)　好色物(イロタヘコ) 万

姚(イロテ) 一方　岩灑垂水乃上之左和良妣(イハソソグタルミノウヘノサハラビ)　不近(イハトカシ) 万

石草(イハノカハ)　和 多　祝(イハフ) 万　鐵帯(イハタヲビ)　絨(イニテリ)

云老日(イハヘ)　忌籠居(イハヒミ井ル) 日　伊波弁良(イハヅウ) 万

去獲(イニケリ) 伊　去年(イニシトシ)　庵(イホリ) 日 日

裂(イヘヅト) 万　集 日 口　槲(イ) 三　云歯敷尓(イヘバ) 日

立継(イヌメリ) 日　労(イタヅキ) 古　労悩 日　御　率旨横

日 太　甚(イタツ)　傷(イタツ) 巳　痛 日　出所(イダス) 日

新世(イレシナヒ) 八　不(イツ)　饑 日 万　不知(イソハ)　饑迴 日 万

於名人尤 万(イツサイルサ)　幾不置(イツラ) 伊　不聴(イユヤ)

不 日　呑 日　何時来去(イツハトハ)　五月(イツハリ) 詐 日

緒 日　國諱(イチム) イナミ　居然不云(イナセモイハズ)　稲莚(イナノミ)

檣 日 万　疹(イエ)　蓮 日　荊 日　答 日　畏(イム)

忌悪(イム) 日　無(イムナシ) 万　勤續(イクサイタハリ) 日　幾昨(イクヒ) 日

労勤之状(イクサイイサヲシサ) 日　振旅(イクサトヽノフ) 日　五十串立(イクシタテ)

禮(イヤ) 日　禮 日　居 日　敬(イヤマフ)　禮 日　茶 日　紫

禮日(イヤヒケ)異　益遐(イヤトヲ) 万　苛(イヤヒクモ)　眺庭(イヤツカル)

藥(イケス)　評(イフカル)(イフカシ)　挹 挹擦 日 万　赤得 日　不

富 日　白(イブ)　林箭挹 日　赤富 日　不知(イサ)

馬声(イ)蜂音石花蝶(イセクモ) 万　率(イザ) 万　辛吉 日 万

倡 日　不知川(イサヤカハ)　不知夷(イサコヒ)　不知座 日

倡月(イサヨフツキ) 三　沙(イサゴ) 沙 日　砂 日　勇魚(イサナ) 日

不知魚 日　鯨魚 日 万　潔(イサギヨシ) 万　明慮 日

潔浄(イサコトヽハン) 日　闘争(イサカフ)　猪(イザリ) 居去 日

誘之(イサヽナミ)云問　諍(イサカヒ)　小竹(イサヽ)　誘 日　猪(イサリ) 日

辛(イサナミ)　猟(イサリヒ) 官火 万　廻(イサヨフヒト) 大 日

小川(イサラオガハ)　寸(イサクメ) 吉　古 六　武士　勇(イサヲシ) 万 日

功(イサヲ) 日 万　功人(イサトキ) 日　忠人 日　動(イサツル) 功人 日 万

浪(イサ) き　度當(イサトヒ)　度聰 日

イキノヲ 気緒 万　気息 日 八　息迫 日
喘息 日　イキサシ 気調　イキスタハシ 勢悩　息迫 日
イユキ 伊去　イキヲヒ 威　勢 日　法 日
イシナミノカハ 石並小川　伊往 日　伊行 日　イユキアヒ 伊去相 万
イヒトヨ 鵂鶹鳥 渋　イヒツルハ 向　云孫 日　イヒシラフ 云攞 紫
イヒトヌへ 餝 イヒニウヘ 飯　イヒトトメル 云歴向　イヒツフ 粒 日　飯 日
嫌 日　イモガヘ 妹之家 ミ 万　飢 日　饑 日　イモ 妹
イヘカヘリ 嫌々 万　一 イモ 妹家 万　イへ 遊
イヘカヘリ 歸来々々 万　イヘ 一絢　イホリ 涙淋

イ 句殺　イ 蝙蝠子　イト 下塘
ロナフ 句鑰 原　ロウミテ 淪 源 宿　ロクヰ スクセ 六位宿世 原　ロウサウ 縁迎
ホノキス 袍 伊
ハリ 著 モタリ 孔　ハニフノコヤ 埴小屋 万　ニフ 埴生 日　ハガイ 羽蓋
ハガイ 羽翼 万　ハルカナルイタハリ 雲功 日　ハタヲリムシ 絡緯　促織 日
ハ 蟷螂 日　機織虫 日　ハツフ 寛花　ハラヘ 被
ハムシノワザハヒ 蝗 日　解除 日　ハ子スイロ 唐棣花色 万　ハフコ 平生 万
ハフラカシ 昆虫災 日　ハフラカシ 放棄 古　ハフリコ 祝子 万

蔓延日 伊 被 蔓日 日 遣渡

日 栩脱湮 曵晌 波心日 波思日 津渠

波舍那日 八花詞

法行 波多学

不惰悦 其 座 天 万葉ノ字 黄手日

燎 濩漈 香 髭日 丹日 妍爪日

新治 万 新墾日 憎亞痍 万 原 布

亦米 万 芭苴 日 新食日

繁 文 葛面 懸 覧経日 紛黒

鳳蝶 鳳子車日 鬼車日 煖熱

熟日 火熱日 宛未枝 万 樋積経

瀆 繁日 欲日 暴日 緩逆 自

怨日 自当日 肆日 檀日 遅日 自生日

自生日

方 弱日 可 ベミ

搓 テニヲハノ字 風動 原 叙 テニヲハノ字 居 トコロ 泣 トテ

外出(トイデ) 除　調練(トヽノフ)(トヽノヒ) 日　司牧 日　合友 日
鳥喚音(トリノカラコヘ) 除　鳥卵(トリノカイ)　屠(トリヘ)　取寧(トリヨロフ) 万
旬(トヲカ) 日　遠山隠(トヲヤマニ)　慟(ドヨム) 万　響 日　動 日
豊浦寺桜葉井(トヨラノテラノエノハ井)　濤(トダエ)　測 日　磯(トキツシヘ)
鶏(トリ) 私　詔(トヽノヘ)　唱 日　濤不居(トナリ井ヌ)　捕(トラフ)(トヽヘ)
擒 日　執 日　收 日　獲 日　外衛(トノヱ)(モル) 二
宿直(トノ井)　聚居 日　侍宿 日　法(トコシヘ) 万　長 日
恒 日　例 日　法(トコハ) 三　常不 日 八　常滑(トコナメ) 万

一の細え(トコヒバシリ) 日、常盤(トキハ)　堅盤(カキハ)　盤石 日
宥節 日　若海(トキニシタガフ)　迴魁(トキノハリ) 日　鶏鳴(トキムイクナ) 日
殆(トミノコト) 急 日　戸母 日　履 日　為月 日
遠見(トヒタフメ) 鋭　吸(トリ)咧・他麼(トモシビ)是毘
靖薨(チリヒホシ)　血拳(チカラチヒ)　莞爾(チイサン) 日　小 日　少 日
千ゟ等携縄(チイロタクナハ) 日　千ゟ等細手綱 日 万
茅昆于屋破(チハヤフル)　千磐破 日　千ゟ振 日
禅振 日　チハイ　数千 日　嫡母(チオモ) 私

乳母(チオモ) 日　乳鳥(チトリ)　紊文(チフリ) 刹那(リノカミ) 万

千人引石(チヒキノイシ) 日

腸乱(ヲモヒミダレ) 忌　凡流(ヲカミシリ) 阿呵 日　姑(シウト) 宇子(テニヲ)

魘(ヲソロシキ)　可恰(ヲカシ) 日　治定(ヲサメ) 伶俐(ヲモシロキ) 擒(ヲシアク)

矣字(テニヲ)　邃穹(ヲクフカリ) 瓊穹 額(ヲカム) 匾匽(ヲシヒラメ)

彼外(ヲモカゲ)　晩空(ヲボメキ) 経延(ヲコカニ) 何別(ヲシナヘテ) 蕪(ヲロカ)

猥易(ヲコ) 日　失(ヲロケ) 日　小長谷山(ヲハツセノヤマ) 鬼志(ヲニ)

許草(レコクサ) 日 万　喧嘩(ヲトツレ) 日　音(ヲトナヒ)　少(ヲトヽ) 日

娘子(ヲトメ) 万　少女 日　未通女 日　少女 日 童

女 日　遠方(ヲチカタ) 方　彼方 日　遠近(ヲチコチ)　彼此 日 万

誠元 日　侵(ヲカス) 冒 日 犯 日 奸 日 僭 日

及助(ヲヨスケ)　誘語(ヲダテ) 日　翫風流士(ヲタハレヲ)　遊士 日

遅(ヲソキ) 晩 日　後 日 最 日 怠 日 綬(ヲシナハル)

形迹(ヲソミノシキ) 文　幸(ヲナメ)　小翻 日　美人(ヲンナ) 日 佩

名自短(ヲノカミジカ)　各鏡(ヲノコ) 日　寡人(ヲノレ) 日　化来(ヲノツカラ) 日

投 日　磤馭盧嶋 日　振怖(ヲノノク) 日

意音(ヲク) 日 怖 日 惶 日 怒 日 戦 日 船 日

麻呂伎礼(ヲキトル) 施稲(ヲク) 日 賭 日 布経(ヲクリモノ) 日

小簸駒(ヲフチノコミ) 小斑駒 日 誘疵(ヲコツル) 日 修 日

奈 日 行(ヲコナ) 文乃 日 日 悦 日 佳人郎(ヲミナヘ) 万

養兵 日 万 娘子志 日 万 姫押 日 万 美人部

師 日 女倍之 日 背角(ヲミナテフミ) 日 下書 日

掛別(ヲミワケ) 万 日 押立(ヲシタチカトノ) 押掃(ヲシハラフ) 截 日 多

押疑(ヲシコリテ) 源 押並(ヲシナベ) 大 押靡 日 日 万 (ヲシ)エヤミ 師 万

詐鋒泥婁乃羅波(ヲテルヤナニハ) 忠照乃 日 万 及

臨照哉 日 押照乃 日 小日吉(ヲヒヘ)

撓(セル) 日 推(ヲス) 食 日 手鳥黒(ヲスクロ) 知

塵俗(ワロモノ) 孫 無利(ワリナシ) 日 葉 日 太 無分 日

無別 日 無得 日 無彼 日 離(ワカレ) 日

岐 日 辭 日 若歌思風(ワカナケクヲキツカロ) 家 渉(ワタリ) 日 汲

建 日 ヨ 海若(ワタツミ) 文 万 広東海 日 少童 日 日

海枠 日 海途 日 万 四綱(ワナ) 日 戦(ワナナク)

蕨 仔 免丸 日 窂 三 不意 日
逍遥 日 藁葉 万 鄙業 日 業度 日
紛 日 縁郎優 日 章悠 月 雑 日
好気 日 笑 日 縮 日 狭 日 乱 日 綱
側 日 垂家 悍 ・垂家宰 万 書様
子 四郎子 日 惑老 万 佞人 日 別
弁 日 除 日 遣不得 万 忘恩 日
核 日 投 日 一途 只且 流之

肥瘠 可畏 右 形管 約 円頂 樊
臂 文 客安く 合 鼓 テニヲハ 擢
観其 一二三 形併 史 闕窺 日 悵 月
灯 名 河平 日 月 ・河邉 月 歎 魚 日
姿形 日 色 日 魚容 就 日 雪子 日 花
帰家 日 報事 日 報命 日 報辞 日
答 可刀利平雲女 万 緒 日
如如霊布嫁帝 万 吹歌 日 考 日

瞰 カヽ 歇布 ヨフ 万　逵 カヨフ 日　徃 日　御 カタハラ 日　傍 日

特立 カタコヒ 万　特念 カタヲモヒ 万　参差 カタカヒ 日　傾 カタフク

偏 日　目斜 日 万　阿党 カタフル 日　玄纓 カタラフ 万

片乱 カタノニヨヒ 万　鞴 カレイヒ 日　角髪 カツコヘテ 古　鼎 カナヘ

髪梳小櫛 カナテノヲリシ 万　以綵 カナデル 日　辭 日　劒 日

賓振 カナヒタカフ 日　哀 カナシフ　流涙 日 日　鵜冠子 カラアヰ 日

呉藍 日　乎萱蘩 カラチサ 日　擱 カラム　禁 日 日

緘 日　外司 カンツカサ 万　祠官 日 日　巫覡 カンナイベ 万

鬘 カンカフ 日　考 日　按 日　推 日　檢 日　勘校 カウカヘ 日

髑冠 カフムリ 日　囲繞 カクム 日　香切火 カクロフ アヘ　胡盤 日

打頼 日　焙火 日　捌檢 日　和蛉鮭 日 多　秋 カケ

副見 カイミル　蓋 カフコノ　眉隠 マユコモリ 万　招文 カレハテ 日 内

括 日　括結 日　延　祠 カレツリ 何

洗滌 ヨロボフ 日　嫁 ヨバヒ　媒 日　夜寐 日　結婚 日 万

男丁 ヨホロ アカリ 日　咸 ヨソホシウ 日　鑲整 ヨソヒ 日　衣振 日

獄衣 コト 又更 万　縦 ヨコニニウス 日　宜 ヨキヘフト 日

ヨシヱヤシ 縦咲八 慨哉 日 万 縦恵也志 日 云恵

弘 日

タチニミハル 騂肩 万 文

タイダシキ 〻安 源

タハフレ 指摩 日

タハレヲ 挫子 万

タヲヤメ 婦人 日

婦女 日

女 日

タワラハ 手童児 万

タハケ 婦淫 日

タカハカヒ 報 日

タハキ 碌月 八

メツサフ 嬬女 日

相抱 日

タツサハニナリ 驂多鳴 万

タナスヱノヨシキラヒ 手揣吉棄 日

タナスヱ 手支 拾

タケノコノオヒトニリ 纐人技 多

タ一キリイニ 逢剗不 多

タチノコヘニ 喜悸 日

タケフ 行村 日

タヘテスヒ 祚卜看 日

タユタフ 猶預不定 日

タメラフ 猶預 登

猶預實 日

タダミエ 母青雲 文

タシナメニル 絶多 八 日

窮苦 日

勉労 日

国尼 日

ソハリツモノ 副物 日

ソガヒ 背向 万

背 日

ソナヘ 供具 万

彼 日

ソムク 背 日

攻貝 日

ソラニシメユフ 虚卜結 万

ソラオボレ 虚覚

ソウルイ 猿郭 源

咽喉 日

ソフ 添 日

進 日

添 日

逆 日

変 日

タウハリ 系 日

給 日

縛 日

タクハヘ 財 日

聚 日

貯 日

タクナハ 栲縄 日

タクシリ 手杖 日

与日 渉日 給日 剱惣者 玉泥日 万
玉切日 霊魅日 残宮日 損日
賊宮日 副那 摽陳日 挺
文宮儀日 日 兵 戎日 縁双日 日
豫状日 湊 集日 会日 聚集
日 手襄日 會集日 万 纏 文 綆日
続日 掴交日 搓犯日 書役日
者日 奴婢日 仕丁日 走丁日

仕 使日 事日 役日 撒神日 差仕日
近習日 桃郷日 僣日 疲日 日
探日 九拓 盤抒日 文 九通日 萬摺日
華鑑日 茵苑 万 支順 文 十和过日
筝日 葉日 扉日 青蒜 多 高
円日 首 実相 胸日 旬日 艇日
綱首 万 月斜 万 乱日 罪日 謀日
欲 箪日 万 無望日 所え日 異日

懐(ナツカフ)幸 日　名負(ナニヲオハ)　言(イヒコト)　半(ハン)　同 歹
蔑(ナイガシロ) 日
何故(ナニユヘ) 日　稼穡(ナリハヒ) 万　稼作 日　稼穡 日
宅稔 日　耕種業 日　月中(ナカゴロ) 日　内意(ナカウト)
升人 日　名風(ナツヘナク) 日　鏡毛菜(ナツナ) 多
艶(ナツカシ) 日　電 日　泥 日　名号(ナヅク) 日　月 日　名付 日
窈窕(ナヨメイタ) 名　婀娜 日　媚 日　茶麻(ナニノ) 全 茶乃(ヨミノ)
罪(ナヒ)髮 万　哭泣流涙(ナキイサナ カナシム) 日　狼(ナエンナ)乱 日 不乱

乳(ムナヅミ) 日 月　鞁(ムロヅ) 日　無礼(ムハタ) 万　烏玉 日 万　列(ムツ)城 日
羽玉 日　攄(ムヘ) 日　絡 日 万　鵜(ムカフ) 日　烏珠 日　烏
向笠 万 日　向寧(ムチウチ) 日・無(ムカワリ)代 日　二心(ムヨリノイミ) 日　向尾(ムカツヲ)
正(ムツキツイタチ)旦 日　棟梁(ムナキ)之居 日　貪(ムクツケシ) 自　園(ムカヒ)
不厭 日　向詞 日　典向 日　日中(ムナトキ) 日
睦(ムイクサ) 日　葛首(ムニシ) 日　未熟 日　一の泊 日
不恰 日　味淋(ウニコホリ) 万　鍛(ム)孫男(ニコヲヒ) 不

平伏（ムケミタカフ）日　[illegible]（ムニやくトニナヲル）万　自服（ウベナヒス）日

[illegible]（ウハ）八　[illegible]日　歐[illegible]（ウチナタフス）日

[illegible]（ウトム）獸日　[illegible]（ウチアクム）日　折背（ウチスカニ）日

[illegible]（ウルムシ）華日　[illegible]日　[illegible]和日　[illegible]日

[illegible]日　[illegible]日　[illegible]日　忠[illegible]（ウルハシミ）伊

伺（ウカヽフ）[illegible]日　[illegible]日　[illegible]（ウカラフ）八　[illegible]日

獄日　憂[illegible]日　[illegible]（ウタヒテ）[illegible]日　[illegible]日万

猜（ウスカヒ）日　[illegible]日　[illegible]日　[illegible]（ウタニヒ）[illegible]　[illegible]（ウツタカレ）

[illegible]（ウレミタニフ）日　遷[illegible]（ウツロフ）日　[illegible]（ウハタエ）万　[illegible]日

仁義（ウツクミヒコトハリ）日　[illegible]指[illegible]（ウツホクサ）多　墻宇（ウツハモノ）日

[illegible]髮（ウナ井コ）　[illegible]子日万　[illegible]髮日　[illegible]女（ウナヒヲトメ）万

[illegible]松（ウナ井ツ）　[illegible]松日　[illegible]（ウナワク）[illegible]日

[illegible]頸（ウナツク）[illegible]頷日　[illegible]状日　池溝（ウナス）日

卜合（ウラナフ）日　占相日万　卜定（ウラヘテ）　[illegible]日

[illegible]（ウラワカミ）伊　丁壯日万　[illegible]羽（ウクハ）日　[illegible]（ウケヘ）伊

咒咀日　[illegible]日　[illegible]日　[illegible]（ウケヒ）日

肯(ウケコラ)下　浮(ウケタニハル)　伝叙日　聴遥日
本居(ウブスナ)日　撼(ウブヤミナヒ)左　續麻(ウミヲ)纏命(ノタヽリ)日
海男(ウミキハ)万　海藻日　雲渚(ウニ)水多　郷(ウシロ)
護(ノタマフ)詔
鄙治(イナカワタラヒ)和　田舎児(ヰナカヒト)和　田舎女(ヰナミキ)神
人定(ヰノトキ)日　井手寛蝦須(ヰテノサヽフキ)和
葬見(ノチノワサ)日　所記(ノタマフ)日　告日　曰日　宣日
埜箸莅(ノラニ)

大地(オホツチ)日　蚰日和　小地日　鱗弛日　尾花(ヲバナ)
莢苑日　蔥芝(オハシバ)日　荻蕃(オハギ)日　義蕃日
蕃葉日和　橿和　高樑日　田ゑ(オハシス)
出切日　紀幸日　鬼(オニ)叢日　須日
大臣(オホマヘツキミ)日　大連日　大郎(オホイラツメ)姫日　大姫日才
縵浩ゑ(オホノレミツ)　嬬宮氷日　ふ小縁(オホロケナラス)
大嘗(オホニヘ)日　内庭(オホトノヽセンシ)日　中庭日
蚺蛇(オホヘミ)多　閑白宜首　内寝荒(オホトノコモル)日

殿内（オホトノコモル）日　西宴日　大殿油（オホトナアブラ）原　侍（オホト）日
槻（オホトキ）右　大路（オホチ）日　於保乎鳥（オホヲソトリ）
大川之邊（オホカハノベ）　大鼎（オホカナヘ）　大生之績（オホヨソノイタハリ）日
虚空（オホソラ）　浮虚日　寰日　宇宙日下
恍朧（オホツカナシ）　恍々束日・　恍々（オホナヾ）　恍分（オホヽレ）日
大兄（オホエ）　大王（オホキミ）日　人王日　天皇日方　朗（オホヽレ）
玉稀不意（オホミヤニヒ）日　思食（オホシメシ）　忠食日　仰（オホセ）
命日日　深日　復日　駿（オトハ）　大臣日日

乙夜（オトヽヤ）　老人（オトナキヒト）長日　含ゝ（オトナヒタリ）
男（オトコ）日　壮士日　前日（オトヽヒ）万　去年（オトヽシ）
恐ろしき也（オトロヽシキ）原　減（オトヽムル）日　陥日原
落落（オトロフ）日　落魄（オチフレ）・凛例日　落々日
更衰日　僅日　太上天皇（オリヰノミカト）　大上皇日
居立田子（オリタツタコ）　下蕃る（オリハヘテ）
境節（オリフシ）　時境日　拝む（オカム）日　瓶（オカメ）去
陰陽士（オンハカセ）　御太刀日　御佩日万

御足(オンタラシ) 刑部(オシサカベ) 生長(オヽシタツル) 日

雄壮(オヽシレキ) 奥(オクニリ) 孝拙(オヤニシタカフ) 大孝 日 字眼(オヤウエ) 一

日 母蚕閨隠(オヤカフコノミユコモリ) 万 家之継絶

日 筵(オシモ) 發 日 史 席 日 以延 日 長(オサ)

仟(オサクシ) 日 須遺(オコセヨ) 伊 長(オサク) 日 治 日 優 日 日

挟制(オサヘイミキ) 治 日 通 日 軋制(オキ) 日 日

長寸 万 女(オサメ) 日 資 真 日 万

長納 日 玉 沖 日 奥津淵(オキツナミ)

大名兒(オサナコ) 八 将子 日 息長川(オキツノカセ) 雅

奥中川(オキノナカツ) 沖中川 日 息長川 日

息之川 日 寝(オキモセス) 寝 為(子モセテ) 伊

奥郷(オキツキ) 万 翁(オキナ) 叟 日 長老 日 老公

日 老宿 日 和 古老 日 翁閑(オキナサヒ) 翁宿 日

宿鶴毛 日 資(オシム) 日 多 縦(オシロイ) 多

所老者(オヒヌレハ) 伊 生前(オヒサキ) 生長 日 小大 日 康

安措(オモナノサニヤ) 日 赫然(オモホテリ) 日 特面方(オモテヲカシカタチニ)

思遣（オモヒヤル） 遣悶 日 万

以為（オモハク） 従容（オモフル） 日 所念（オモホユル） 万 意外（オモヒノホカ） 日 那常 日

不所念（オモホヘズ） 万 非常 日 可念 日

媔 日 沢 日 佞 日 可恰（オモミロ） 日 恰阿 日 万 隠欲（オモハンミ） 万 阿（オモネル）

飯（オモノ） 粮 日 御羞 日 相 日 飯湯（オモユ） 物湯 日

痛（オモル） 重（クハシクヱラフ） 篤（オモシ） 日 侍看（オモヒヒト） 白 侍醫 日

妙簡 日 宗廟（クニイヘ） 日 社稷 日 風俗（クニワサ） 日

俗 日 口遊（クチスサヒ） 口号 日 歴来（クヌキ） 万 も稾 日

流涕（クルニシヒ） 苦労（クルシム） 日 困窮 日 ふ苦 日

窮屈（クツヲルヘ） 日 顛 日 顛墜 日 位卑（クラヰミシカク） 日

位に非（クラヰニスヘクテミシル） 鞍韉（クラフオロス） 倉（クラフ） 喰 日 喫 日

級 日 縷 日 齧 日 噬 日 切付（クツウチテ） 除 杭（クヰ）

桟 日 檝 日 掾 日 楾 日 くるる（クヰナ） 亀雉 鳥

日 哺而（クヽメテ） 天弱（クドヒ） 日 還回（タニワ） 万 匈苦元（クチカリロニラハ） 日

縲（クサリノモチヰ） 草縦 日 久米（クメ） 卒蹊橘（チノハシ） 寒足（ソミク）

眷属（ケンソク） 支額 日 食（クイモノ） 喰物 日 閲（クヒモノ）

嗌(クイシハル)　若菜滅逆(クスメチ)　柔(ヤハラク)
灸(ヤイトウ)　火回(ヤイハタノ)多　焼畑 日　括箭(ヤハヅ)
和 日　輭 日　耎 日　揺 日　移 日　餓(ヤセ) 日
飢 日　和光同塵(ヤハラクルヒカリヲチリニマジヘ)　八千二十字(ヤヘハタヘ)
八洲桜(ヤヘザクラ) 万　八洲葎(ヤヘムクラ) 万　八百日行浜(ヤヲカユクハマ)
八百字(ヤヲヘ) 日　八十梶懸(ヤカチカケ) ヤソカヽケ 万　三月(ヤヨヒ)
八峯椿(ヤツオノツバキ) 万　八峯雉子(ヤツオノキヾス) 万　胡簶(ヤナクヒ) 日
矢並治(ヤナミツクロフ)　柳筥(ヤナイハコ)　逝(ヤスラフ)　擯 日　返 日

𨙻向(ヤウコウノ)　微(ヤツヽ)　微(ヤツヤク)　稍 日　漸 日
八丘(ヤオ)　八峯 日　八尾 日　八方(ヤオモ) 日　八面 日
薬莱僙(ヤクガヰシ)　山峽(ヤマノカヒ)　峯嶸(ヤマノイタヽキ)　山祇(ヤマツミ)
山岡(ヤマツチ) 日　山鏡之折(ヤマノタオリ) 万　山葛(ヤマカツラ)　眺望 日
山澄(ヤマアヒ)　山藍摺(ヤマアヰスレル)　山鳥之雄之初尾(ヤマトリノヲロノハツオ)
山鶏尾独揺尾(ヤマトリノオノシタリオ)　山多豆(ヤマタツ) 万　貫(ヤマニ)
衆(ワラヒ) 多　高陸(ヤマコホウ)　病(ヤマヒ)　病 日　疲 日
痩 日　所悪 日　藪(ヤフ)　藪ふかう(ヤフミワカヌ)　養(ヤシナフ)

鞠養 日　養子 日　養孫
八幡宮 日　八日 八條 日
貨賂 日　賄 日　賣僧　養従弟
頒系 万 日　圍　廻 日　回 日　養飢人
相保 日　捍 日　寄濤 日　縫
韈鞈　扇後　寺床進 日　指甲瘦
目臉 日　円居　納居 日　燕居 日
碗較　紛　繽 日　乱 日 万　全人

連人 日　匂復還　幸 日　三従兄弟
餘泉 多　文蛤 日　侭　和侭 日　琵琶 日
諸眼 日　不仕　一向　寺向 日
妻那板　祖 日　切板 日　故本給 日 多
姐既屠 日　倣君　上嗣 日　維城
明日　公卿　日　群僚 日　大臣 日
太史 日　群臣 日　寺人　客 日　臣 日
條上　昇殿 日　昇進 日　暴進 日
日

語（ミウクリ）曰　奉對（ミツハカヒ）曰　違陰陽（ミタシタカフ）　呂類曰
内附曰　海波曰　申遠曰　言（ミフス）　ヤ曰
啓曰　曰曰　奚曰　謂曰　星曰　白云（ミヲシテミ弁）
請曰曰　諮言曰　猛匂旨（ミワニノヽシル）　交初交（ミクハヒシタヽフ）曰
非員醜（ミケシタヽミミイ）　原　家數喜（ミサリカホノキ）　伊　緒両色曰
桐板（ミサイタノ）　樓殖（ミキオフス）曰　蒔生曰　壱江見（ミキエミミユル）
斂更（ミメオトコ）　伊　実男曰　豆田（ミメフ）曰　大豆生曰
見（ミミユル）　覩曰　視曰　益清れ（ミミツ）　壱清れ曰

梼兒（ミミニナヒ）　狂匝耐曰　御乞兒曰　厭曰日
糸（ミミシテモ）曰　交曰　交（ミミハル）狂　雑曰　絞曰　擾曰
同例曰　間（ミミシル）日　吉白首鶴（シラヘノタカ）　伶人（ミヒト）
妓（ミヒメ）　大丈（ミスラヲ）日　万　益雄曰　賤男曰　男子日　月
男曰　健男曰　万　武士曰　益荒吏曰
這男（ミスラオトコ）　十寸穂屬（ミス　ホノスキ）
氣（ケハヒ）日　形貌曰　象氣　様曰　氣華曰
結月（ケチメ）　旨　論曰　掲月　原日　氣近（ケチカフ）

ケヌカラヘ [illegible] 　ケシサルヘ 消推 日　ケウタフヒ [illegible] 原

ケウヒ 孝 原　ケウナリ [illegible]　ケウラナリ [illegible]

ケウサウヒ 假粧 原　ケウトキ 気外 原　[illegible] 日

ケフ 今日　サヘ [illegible]　アスハヘ 副 [illegible] 副　[illegible]

毛布細布 日　ケノホソヌノ [illegible] 細布 日

[illegible] 日　ケキヤウシタミラ 現形 [illegible]　ケコノウツハモノ [illegible] 伊　ケシウ 下司 伊 家

ケモイコタチヌ 毛 [illegible]

フトキスハヘ 苔枝 日　太 [illegible] 日　フチ 黄 [illegible] 多　[illegible] 日

フキヨ [illegible] 和　[illegible] 日　フリハヘテ 振延　振 [illegible] 日

フリカタリ 振放 日　フリワケカミ 放髪 万　振分髪 日

フルイ 鉢? 原　フルイオキナ 耆宿 日　フルイシノノク 戦慄 日

[illegible] 日　進止 日　フタアヒノユウチキ 拳 [illegible] 日　[illegible] 日

[illegible] 日　振 [illegible] 日　フナツユノイ 二藍小袖　フテヨツヒ [illegible]

フナ 舟 [illegible] 日　フサハシカラス 船 [illegible] 池石灰 多　シワラハ [illegible] 日

フシノオヒト 書 [illegible] 日　[illegible] 原月　フチオカヘル [illegible] 日

フミオヘルアヤシキカメ 文負靈亀　フシ 富士　不盡 日 万

不死山(フジノヤマ) 不二山 日 伏水(フシミ) 又 緒子水 日

念得刑(コロサントオボス) 日 謦(ユハシワクリ) 拒捍(コバミスミ) 攫 日

郡縣(コホリ) 日 不審(コホリケタノリ) 多 蝉(コホロキ) 下 嬉剗 日

恋愛(コホシキ) 諺(コトハザ) 言葉 日 言吉文 日

言伝(コトノユヘ) 縡啟 日 言爲(コトナシヒ) 日 理(コトハリ) 彰 日

判 日 受 日 義 日 論(コトハル) 詞廷(コトハタニテ) 孝

比牛(コトイ) 万 特牛 日 打攫(コトリツカヒ) 收 小之最

日 打攫最 日 小老(コヲトナ) 万 重宝(コヲヨヒ) 私

毫戩(コヨナフ) 向 閒狩 日 事外 日 怪 此変(コタヒ)

又粗杠(コヨウノハミツ) 答(コタヘ) 對 日 愈 日 訓 日

[illegible]列 日 和 日 報 日 [illegible](コラヘテ) 金剛子(コンカウシノ)

念珠(ズズ) 添 後後殿(コウラウテン) 團亭(コウシタリ) 添

木居(コ井) 長幼(コノカミノヲトト) 日 兄弟 日 兄弟(コノカウヘ) 児(コノ)

手柄(テカミハ) 此八(コノユヘ) 此幸 日 此所 日 曲水(コクスイ)

毫羅百海(コクラ) 駒返(コマカヘリ) 若反 日 添 狗(コマイヌ)

巨々發(コヽシウ) 添 巨々等(コヽラ) 宰(コヽヘテ) 述 日

氣 日　心銃 日　之見 日　煩熱

心緒 係　心端　失之一 和　失志 日

隠欲後 日　肥満　膏腴 日　越 日

部 日　踰 日 日　来云絶 万　子交

来海　水豆湊 日　濃香泥 係

檣擢舟 万　小余綾　次第

涅漕渡 万　纏打　癧 日　偃 日

額紫 和　越跡　塞 日　胡跡 日

誦詠徳之音 日　迹湊府役 係

無己孔子例 係　近臣 万　展將 日

色彩　庶幾　希 日　慕 日　冀 日

就物四木枝 係　巨細見 係

敢無類　敢不固辞　緑介師之客

得名羽月 姦　枝繞　得不気

敢不從 日　桟 姦　蘆 日　藿 日 日

得不獲備本 伊　閻浮身

荏油（エノアブラ） 荏脂 曰 榎葉井（エノハヰ） 江声（エノコヘ）
敢也波伊吹羌蒿（エヤハイフキノサシモクサ） 恐咒咀（エシウウノヘテリ） 日
閃刀紙（エヒスカミ） 止云者（テヘハ） 万 着（テヘレハ） 抗折（テシオリテ） 万
絡石（テイカカツラ） 多 捼手 曰 手更（テカハリ） 手变 曰
叉手（テヲアサヘ） 配合（アハス） 日 婚 曰 書 曰 配 曰 翕 曰
勠 曰 周章（アハタヽシ） 擾乱 曰 阻（アヘ） 日
哀（アハレ） 止 曰 慟 曰 万 恫怜 曰 ん止 曰

憐（アハレム） 憖 曰 矜 曰 怜憐 曰 万 大海（アヲウミ）
濺須 曰 蒼海 曰 喘（アヘク） 喘息 曰
哀思立（アトモヒタヽテ） 万 欲出乎（アトモヘカ） 万 味村驂（アヂムラサハキ） 万
無為（アヂキナウ） 史 無事 曰 日 無端 曰 無状 曰
味東（アヂハヒテ） 饗食 曰 教（アヂナク） 曰 日 味澤相（アヂサハフ） 万
味齊苗（アヂニフル） 万 味酒 云 無礼（アリノスサビ）
蒼紫菊（アヲフシカキ） 日 蒼生（アヲヒトクサ） 日 赤舟（アカラヲフネ） 赤莊
小舡 曰 万 赤莊扁舟 曰 閼伽（アカツキ） 去悪 原

逆賊（アタカタキ） 日　何當 日　莠哉（アナニヘヤ） 日　妍哉 日
可惜（アタラ） 日　穴太（アナフト）　穴穂（アナウメ） 日 古
荒振妹（アラフルイモ） 万　暴神（アラフルカミ） 日　荒振神 日
荒和祓（アラニコノハラヘ） 万　荒廉妙（アラタヘ）　荒栲（アラタヘ） 万　暴悪（アラウナ） 日
足音（アノオト） 万　踞（アクミヰル） 日　・覓坐居 日　綾目（アヤメモ） 日
不分（ワカヌ）　黒白不別（アヤム） 日　文目不分 同
悪不分 日　奇怪（アヤシ）　神徳（アヤシキイキホヒ）　和（アニナフ）　善
耳 日　倭解（アミナハシム） 日　大相七兄（アフトモテ） 万　咽（アニ）

飽（トヽナフ）　无益（アエナキ）　无敢 日 何　朝魚夕菜（アサナユフナ） 万
嘲笑（アサワラフ）　闇 日　笑嘘 日　听 日
似（アユル）　（アエカル）　雨（アメ）　保（ホ）　零（フル）　何　微 日
網（アミノハカヒ）　羽蓋 万　齒（アエキラヒ）　棄 日　對面（アヒミル） 万
不相而（アヒミス） 万　逢（アヒキトモイハユ）　世非 云　同律（アヒタクム）　巧 日
手（アヒタヽカフ）　交戦 日
在所（サイタツ） 日　先立 日　ー（サイハイ） 日　祚 日　祐 日
福（サイクサ）　子 日　三枝（サイクサミツリ）　采　罪（サイナム）　詈 同　咄 日

近遊（サイツコロ）日　近沘 日　玄沘 日　清ゝ發（サヽシキ）

震動（サハク）日　敖 日　踰 日　訕嚨（サハメク）日

入月蠅（サハヘナス）万　蠅聲 日　縛（サハカ）日　正 日

多有（サハニアル）万　左丹頰台（サニツラフ）日 万　稜丹頰和 日 万

敬頰䅂 日　副（サヘ）テニハ　里長（サトノオサ）禾

佐青（サヲ）万　副（サシニシロク）ノ字　係　小壱白　小壱る（サヲノニ）係

五月乙女（サヲトメ）　幼奴 日 万　牡鹿（サヲシカ）万　早鹿 日

昌鹹（サカラ）日　壇場（サカヒ）日　界 日　境 日

著蔓葛（サネカヅラ）万　五味蔓 日 本　髗（サネカツラ）日

吟（サマヨフ）日　吟（サマヨヒテ）夫　伶傳 日 文　西愛以 日

乍（サワラフ）日　作 日　左佐（サエ）　左術宮夜壮士（サエシトコ）万

作敬言衣惜子 日　磧（サヾレイシ）　細石 日 禾

碟 日　砂礫 日　罫（サヾキラフ）日　一呵 日

隠声 日　投（サシヲロス）日　佳役（サミツカフ）日　猶閑（サミカタム）日

流竇（サスラヘ）日　書流沉 日

納（サキハ）万　沉 日　條 日　力（キハ公）日　掐 日

京戒 日 彼岸母許余比毛 万
紀閣 日 后宮 後宮 日 掖庭 日
縣口 刻 日 雉 日
就御 日 斑 虫 日 虫手 日 西 日
沐浴 日 去方 万 行末 日 向後 日
喚闇 万 夕喚 日 暮三伏一向朶 万
夕附夜 日 夕月夜 日 夕星 万
湯洗 日 去更 万 往復 日 往還 日

眩陽 日 發聴同 日 感 万 愛 日
憐 日 珍 日 希見 日 慈悲 日
佩宜 日 柔仁 日 恵 日 恤 日 恵 日
巡猾 日 合眼 伊 瞻 瞋 日
鞠 日 妻 日 婚 日 配合 日 配 日
喚入 日 召納 日 万 召合 万 召集 日
王師 日 皇御 日 御軍 日 德 日
御威 日 哀葬 日 合宮丈姪

夫婦遘合(ミトノマクハヒ) 日 共為夫婦 日 欲共為和(ミトシセントス) 日 三

御田小田(ミトシロヲタ) 日 進食(ミヲシ) 且当欲食 日

三輪(ミハ) 神(ミワ) 万 紳小菅(ミワコスケ) 万 三輪小菅

三狂(ミワケ) 見分(ミワイ) 原 兄泊(ミカホ) 日 圓象(ミツハ) 日

水沫(ミツノミナハ) 水滴(ミツイレ) 硯滴 日 水洗(ミツアミテ) 日

水穂地(ミツホノクニ) 水繝柏(ミツナカシハ) 日 万 三角 日 玉 一二繝延 日

澪閣(ミオモヒ) 日 亮 日 出羽(ミヤツカヘ) 日 官 日 丸

屯倉(ミヤケ) 官家 日 文租 日 日

雎鳩(ミサコ) 禾 雎鳩 日 水紋 日

今見(ミセシム) 除察 日 日

白妙(シロタヘ) 白細(シロタヘ) 日 白栲 日 万 柴冬(シハス) 日

師走 日 塩(シホ) 鹽 日 潮 日 海水 日 日

塩滿若入儀(シホミテハイリヌルイツ) 潮満瓊(シホミツニ) 日 潮涸(シホコル)

面縄(シリヘテミシハル) 端出之縄(シリクメナハ) 左縄端出 日

後連 月 私 循(シタカヒ) 率 日 伏 日 日 順 日 随 日

男子(シツノヲ) 万 怙恃(シツカ) 日 定(シツム) 日 安定 日

品定冠賜（シナサダメカブリタマフ）万　考選 日　颯纚（シナヘ） 後

四櫸蓀妹（シナヘニアランイモ）万　志芸萎腦（シナヘウラブレ）万　圓呂（シヰテ）日

強 日 万　志召備介（シノメタケ）云　百篠竹 日 多

之蟠押靡（シノニヲシナミ）万　布結（シユフ）標結 日 万 卜

結 日

恵具（エグ）万　女萎 日

延内之（ヒイテイル）日　一道（ヒトスヂ）万　一丈（ヒトツエ）月　日

朔 日　人氣（ヒトノケハヒ）日　口お（ヒリム）万　西南（ヒツジサル）日　日嬉（ヒトヒ）日

目双（ヒナミ）万　翮（ヒラヒ）日　神紀（ヒジリ）日　吉人 日

大人 日　帯（ヒモ）日　匕首（ヒモカタナ）日

諸兄（モロトモノヲ）日　迴（モトヲリ）万　三五月（モチツキ）万・十五月 日

往紀（モノヒモヲヽシタレ）日　百机（モヽトリノツクエ）日

抑裳帯 月

棊（スハヘ）万　氣象 日　搖 日　標 日　楚 日

朴素（スナホ）日　質 日　清江（スミノエ）万　須吉 日

追加

仮名の仮名のといふるす

一仮名つかひをいふす世に知らぬ人もなく

かなの違る人も乱しやすくホヲオホエヱ

へイ井ヒなとをいふすへ特まことんあるさ

またに書くやうと須ひる物なれとやすく

うんなのうるハ忠としにいつるかくし庭

の真字と仮名あつかく我らの詞

とつゐるかひいかしへハさのみよきまへ
たしる事ほとも有けりぞんを井つたへいよ
く浮学の道ふかく学もたのしさんもり
なりそく行しよつて韻書に悪しく
まく世もまかしかすへく和神書乃
むしよりて広ある八浪かにしらくすじ
人を続しも又なかり世つるく人と
そ代々の争ひを数多度なりて来た

中華の浮なる国に生まれる人も霊夷
なるや此都に居しつ続ハも子吉
男もみな結よ中土の名残出ぬすにたへ
まへしくしてもせ父母のつらくかしひ
をまとつるかとわし未くまれよしるま
く学も混雑の国なる人の耳に八イ有し
うか西東と定まるもありともやよ続ハ京読
に夷狄の声おほく通戒よ荒浪乃

声と能ふものありかなもんかくしかれて
まうるゝ後いひ調ふへきにあしれは其音の
うつる実の字にあまりて家も声て次他
を文字をとなへして名目とうへ切りる
ありやうにんにんいふやとのこつのと
かなよりて仮名を設定つるかな字から
に只当世に志さうひを作よろしきを
のへりさうると書しかせよ

いろは乃書やう

い　左へうきとかけ　いなゐし
ろ　筆とろふ左り　うく廻し
は　右とよ　あくせし
に
ほ　別くは　出廻し
へ　かろくとまる筆をのへし　筆あとり口にて作るへし
と　とろく　と出し
ち　ちうらとちくと
り　かるくまきめくし
ぬ　日上
る
を　とろくと　ところくと出し
わ　日上
か　日上
よ　とし
た　風情
れ　はねをかるく　とろくし
そ　とろくとうきく
つ　かるひあり
ね　右ときく
な　とろくかとし
ら　かきく出し
む　まへし
う　日上
ゐ　とろくし　とろく
の　かるくまとう上出し
お　とろく出し
く　かるく出し
や　とろく出し

まうしつけまゐらせ候ふすこしくこと上れ日
てがみにくあなたくさまへくきつかひんまゐらせ候
ゆくくめまゐらせしくみかたくしゆめくことも
忠もひ候へくひ但をもんもかたくせまゐらせすと日
物ふうつくしく書やうと候へ
とこれへし是ハ一字つゞけ書候とはし
うくとまつけくうけ出く物志けさ候は
ことに書羽ふへつきくれ宗へなかくして候へとく
らやすたまのとてかそくもく数まいけ上日

さきこれも一つ字れまつて候にしとくそのくしこれハ一字ちゝ
とくつ面これ又是のそれとれとまいらせ候
これハ二字つゝけてまいらせ候これハ一字にて上書候
候けくさしくてまいらせ候おもひこれ候
ふくしくるつく 堺の御のむまいらせくこれは おもひさせ候
つけくくまいらせ 堺の御の松これはおもひさせ候
これハかくゆるくと枯風にわひゆくも
ゆるく術と書候 枯風にわけひ候
もれをわるこれハかんふ見堺りこれ
されくさむかえかくへむつしてちえ一字つゝ
なくしもかえつくね豊ちえ一字つゝまか
かうえほくくもしくへしふえたえきつえ

ちえ まつえ みえ 風ちえく つえて
のみ えやいかさ これくつよゑし さへの
ふね これいのとやふ がるでおうもあり
さつねぬゑし きよ尻ゑつく そまあは
まらく まへしわ ころくとゆさう との
ゆへつけてさゑし あおつくゑし 杨もさふへ
ミへし さへゑつく ちうゑ月ゆくゑつけてゑ
まゑかくやふ まとゑ日きれへつくおりん
わつくゑつくて ゆひもなくてゑあれてひきつね 上日

いろもる ころくとさうし かきやゑふうもと
いをや ころくとつよく くくとうくゑし
うきさうてゑし いきを けさうくまい
とかきやう きやへし
もしくとし まをのんふり つよくやさうかし
のこゑおりとつけく これいよく いとくけ
のさやるよゑしつてゑし もいをおらゆへ
もつえ そふのえん のひくと をかへ
ゆきつて そのてゆき きんさいのおひへつよくし
てゆふえん ゑえゑゑし ふてよ もしとみ 上日
もふつさうし てくも
めへし
もしつよね いそく よそ いつきよし てん

ちうふ一むすびつてなかし　まかひれこせよ
まかひとり　まかへる　のひくと　みゆふくら
とつけむつことゝにふ　やうしく　まかふはふ
こうふつくはぬすつ　彩と梅とまふしく
うくなし　ひえひさわ　かやうふつくぬし
わえびさわ　かとまふ　人は紅
みせんなえ二字つほし文　ほうこう
なうくとほしのつぬ　のられこつくにて
つくへし　とちさける
ほうへいせくなきをしをかへし　ひさくさ

とえきとうしなふ　それより高もつきの此まなと
とくめえぬ　とのふ　とりぬ　やりえ
とりまわれ　とりよろふ　ととう　はゞ
まつひ　とよするふ孫　のひくと　とふり
のなる　とうとかつる　やうぬ　とうく
それもつよく　とうしまい　とうよい　とう
ろ月上　とうしちん　とうまうしき　ゆらくと
とふつふ　とうしふへ　やうふかせん

よりひ　ともふ　ちうちつ　ちりちち
ち入よ時よ　これくのんともくこれくの　こと
わそやつ　めつし　ことゝいふにもうめし　ゆふくとわそ
こゝて　とふ徳　ことふ　やまつぬし
このそ　とが　とう　ろうそやつ　とり
その　とりめ　とん　ま六し　とり
つけく　とうふ　とまふ　とすけ
六し　とうれ　うきつふ　すそは　ととせ
とれその　とうれ　とんそ　のやつ
よまくようつらは　とうつ六しは　その　あのこ　ふ一ふそ

とのくわりそみち　とうれ　これらいん字
とられとも　ことまかりくれくとかる　それうかへし
くえものかきまけ　とかり一字二字のつきかく　弘
わちすうことこえし　とりとの　のくえぬす
りさとあらして　ともうひのらく　白と
ふそてまうくぬ六し　とそれも　つく　巻つく
こころ　ちよかして　ときのつ　ふくし
とされふ　とさのら　とみのらう
とのこうせ　いふものひやうえ　きつぬてし　とうひく
とあけうさ　とひより　とうしう

さひし　さびえ　さりとくさ　さゝくと つゝくさ

さもしくる　みさま つらくさ　まいろ　まいそ

つくさい やうめし　まさこ　さかて さんし　まりふ日 に　まが

まゝつみ　つらくまへくのひ やうまうくなし　まうして

まうりとめひ　あ・えひある　よわくと書 てなし

なけれいそらるむ　こきりまかとるよ まきるれへ下　おき

る　一ふてよ つく　ことら　こゝけり　まい・ゑ

こら世　路ま　こりまま　こゝとま

こかしひ　[illegible]　こよひ　こよみ

こよなふ　こまのまつ　こて入

こうしより　こころえひ　こゝく らなくて流

おほとう　のとか あへし　れほとらあり　あそて

おわつみ　おわれて　おわれく

れわやまと・おほまれし　おわふ

こてふかくり　一ふてようきつくあかれし さえれしあしれん御へし

こさくし　あえりとの　あえりの

あさきのみ　（きやうけまうて）　あ　んかり

かくふ　あされ　ゆかか　あさ　くひ

あさうか　かうてく　あくふ　かあてやひ

わしれうまうふ　あしかえ　あしもと

さいあい　さふくさ　さえのこ

けうひ　けいて　えまいちう　けん

けとさてす　けつる　あしをさる

これしれ　あくしく　さうや

さし　さうひ　（あけらくまつ）

さうしゆうく　けうあん　ざえん

けうまん　えんえもらあえ二　（字ふくまきうめ）　さう

さうあさ　さうあい　あし

（ささもくらこ　いきうしも）　あか一　これは本字也ともあり　ゆとひ　いやう

さくちやう　さむ　さうあ

まうう　ざえ　さえうしに　さえうに

けとふ　さうふ　さうえ　こいの名あり

すまふ　すけかり　まよふ　すまう
まあれ　まよふ。こまかみくさ
すみのえ。みふらくと　かつかし
まゐとのつかり　まひろく　まとまかい　すたれ
ま　すつき　すつまし　むだ
まなへ　すゐふ　のひとえ　つかへし
すけつき　まけむ　縦　すゞむさ
まけつふ　まうかひ　まうつう

まうひく　すそきのたぬ　かくふくちろし
まめしねたゞき　す徐まるろ　こまえ。
ねひえ　ふらう　まうのまかふ
まうくとひ　まるあ　つましさえ
つましき　ちゑとかし　ちゑれい
ちあけのみ　まとやうに　つかへに　ちさあうそひ
ちうつまちつさあうう　ちゑある
ちりうひくされ　ちりのまうひ

いつき いそふ いそうし いそらい
いのうへ いかさき いつうり
いそまかふ・いはやふ いたむ
もとのつゐ もちくふ のひやふゆみくとえ つゝみなし
もるうかるいてきり こそねとつき
はさまれ そうひのゑ もうい
もとせい もつむ もつてひ
もあと ゐいむ ゐんつき

わしひ ほしいまく ほそかゐ
ほそみ とりもつや ゆのさをひおれや みくふしうさえこ
めりひ とりぬ たしう ゆへし とかやさく
みれうかるやしれ とふとくえし よしとさうん とうるしの
つえのとつてよ とうれあり
とそけひ もゐん ほさまれ とらむ
まふさ ようひくさ よらひふ
うせとこさふ ゆのうさかきし うきつくし せうれさと

まふなれハ一字づゝにて之　あけくいふれ　あけ
おい　出よし　壹なりなり　しまし　墻なり
ろざいん　しておりし　しまおつあり　かりくせ
えらいかく　こゝとあけく　こゝろ
やまとうたてくなし　とりく此わせ　かくくと出つみ　三氣
のまとてし　えいやし　おもふく
をとおふ　おわせつてゐる　れたるや
ありのまゝへ　あまり乃まつてゐる

あひとね　かりそくもくしてかりあのかつく　いさうひ
うたうたまよのひく　まきかうていとなあるへはへし
とかくなし　案ハ此類とふつく準ゑし
つこのみに假名のつく称するかよふするに
語ふくる者さ不といふゆも書切くとなくる
ある字とやなるよへハ
さしれうちにもるはとふなりひとし
を以てより中やいゑてしとやいふへん
くのよくなる斗　又ハ其紙しえさく

なと数多ありしかハ二行目三四行目ニ
立六行目ニて立六字花ニ言葉ハ前の花
皆冠木のかなひありてこそもしろきまゝハ
く書也

風のくもわくれ
うくれあさき行
深くれ行ハ
よそしてわきも

やとりせし
のまくらにわかの
いりひさし
いはも海ニ緒ろ
そよ河しま
そり
如

これハと立五六行目ニちなみよふなり

かをとめのさとをもろ
こえ乃ほりこゑも
きの花みされ
うたうきしうきこゑ
つとらのふよされつゝ流
なとも代をいるふ
こるいかみそ
きそらん

見代ま川たつきのくさともて
を待しうらん家みえき
はつしるもを飛
なかれては妹背の山乃
中におつる吉野川の
よしや世のなか
志ら雲乃よそにかゝる龍田山
とふらふ嵐に花負ふし

此外乃すかたハゆるしく文あるまじくして波
今のとかくもかくへしといふ事にて百年
之を作りて準縄となせしハ行成大納言
行成家乃御筆様案 後人の付たる名也
文字ハ凱号なり
八字の文字なり
うし勝仮なり
ともつてのにみ外二の去之
須されしとあらよしまふにつかハし
御しれりての文ともえらハ知られた
とく後人まよ軽忽にせまし

假名の庭しのくす
みる此文の詞ふんにぬけ此假名あり
又ハ関なきしあるハ書ひなれうつ
ゆへにそこハ縁に志ても日ふ志てうひ
ていもろて縁に於ても参へきうこと
とふハあく縁とかきうに古ものそと
をかりんのく古今よ人も文とうち
ハいつしきてふこその色なるもあ

やうなるあり　あかりて学ぶとりく
うち䛇くことくハよ䛇くハ仮名の字
のことをはかり知られやとかく文
世話　タリ　てふ　なとしらる詞ハ行ふより
てくハ心得ある事なしなかなか仮
名のしふようされハそのかなを用ゆへし
その後ハ行ハ行ふありといふ事よく心
とらひられハそれとえるりとらふ詞

よつかく染りと云もタリハてあり
のんかありテフハかならすも出来よへしれ
もといふ詞のこころを知らせて據つて
定むるにれおくありの文字にてハ待
そうしニテア此三字を共略しく
ニツを仮名にしに反とも糸阿反
奈とかへるさるよりてもとつうひま
しつるありメリハ麻江反タリハ天阿反

テフハ止以支以てすゝも此ころよりて
そうまゐるへし上の仮ほう消の字
をトキエキユ用の字とモチヒモチウ使
の字とツカヘツカヒツカフなとさき仮
ありまるヒフへの画イキウクの画
なとのまゝ少く五音の内画なと
つゆかまりつまへ待る
仮名之しの法乃すさのみ例よ・

原ゆりても特く掲く初心の人々おほ
皆ては目の見てまさ字源にて待るゝしゝ
又は仮名之しふ心へてむ思ひよなきまゝ字
乃支紙初ひぬむと思ひて又音の為り
むつかしく ふの字 仁の字とほしと相るに字
又約目乃よより字二つよありさくに
の字ハ字一約の字字よあり如紀
二つの字のありふとよく見便

さて反切の法とゝくみえたり反
切の法といふハ仁の字ハ始にいふ子
父字とハ阿の字ハ孫にいふ母
字とし天地も父気のことわりもと
り木に母字を以て父字のあり本ハ
通をせ父母あひさのしみて子孫と
出れの理りより本母字父字母字相宗にく。
字なり悉曇宗ニ梵字とハとせれまふきこら

宗の字に反するなりんハ父字乃仁の字
ゑて又出るめでた母二に本あり母字の阿ノ
字ハ第一の始子あらハされて反切乃法
ホしく母字あらく只字の出たる
いれるすあり是ら此阿字なる出りと
積ハ又出るめにあるる字形てる通ハ則
宗の字とやうてされとなり宗なとし
て也とさるゝ文ハ以反て子なと云得

とこ ろに天の字に反るゆゑ知らん
ためには先人トのをもとむべし
止の字は くへりのトノ字は去るの 止まり徒土とふゆゑ にト射
にまかめの下乃字よりにありて以
り字は射一の紹乃射二ありて参し
にえあり平とよく見出し家てくを
係彼反切此例をおく見るにツの字
の下まてツエフと反て是も文ツエの

反ふてニアひ反切とる味天とくるゆゑ
それとテフといつるは之集トイフ
と唱ふる味母字の轄するフの字
をそのままに反てやうてテフとよ
ふも細に反しる世の字もこの
類なくニアリのりの字をとるべく
え、とかかるし他ツルテフなとの
要くひは反切よつていふ、くの

んはなはだかしもあらはれさし
あきらかにめでて反切をもとを二
まゑしとらへ行しくい字を
以て知べし

ア イヤ ウワ	イ イ井 ウイ	ウ イユ ウヽ	エ イヱ ウヱ	ヲ イヨ ウヲ
カ キヤ クワ	キ キ井 クイ	ク キユ クウ	ケ キヱ クヱ	コ キヨ クヲ
サ シヤ スワ	シ シ井 スイ	ス シユ スウ	セ シヱ スヱ	ソ シヨ スヲ
タ チヤ ツワ	チ チ井 ツイ	ツ チユ ツウ	テ チヱ ツヱ	ト チヨ ツヲ
ナ ニヤ ヌワ	ニ ニ井 ヌイ	ヌ ニユ ヌウ	子 ニヱ ヌヱ	ノ ニヨ ヌヲ
ハ ヒヤ フワ	ヒ ヒ井 フイ	フ ヒユ フウ	ヘ ヒヱ フヱ	ホ ヒヨ フヲ
マ ミヤ ムワ	ミ ミ井 ムイ	ム ミユ ムウ	メ ミヱ ムヱ	モ ミヨ ムヲ
ヤ 井ヤ ユワ	井 井ヽ ユイ	ユ 井ユ ユウ	ヱ 井ヱ ユヱ	ヨ 井ヨ ユヲ
ラ リヤ ルワ	リ リ井 ルイ	ル リユ ルウ	レ リヱ ルヱ	ロ リヨ ルヲ
ワ イヤ ウワ	イ イ井 ウ井	ウ イユ ウヽ	エ イヱ ウヱ	オ イヨ ウヲ

左の字此うちに。乃あいをんまなて
二アの々しとあんせしたるなり△とは

するハ梅納の字なり是等のごとく細かなる
ものへさまゞ紙様本紫来ども分かる
あり父母の二ツ二字にありて様ふア
合はとられハ父　みのところへ反えたと
へハ糸偏反本ふ此如き是く紫来とい
父母の高字とらし一紙の内まごとい
世字はゑるゝたとへハ偏ハ並二一字
をゑはかてしるき則アもイゟ貫一

紙にありもと反偏に別　母字なり
流りくイとゑるゝこれと紫来とき
案ハ分るへて紙恩し
さ続く是ホつまく紙名の仮名弁
恩し　あるとて
きり 儿氏 てありとき　めり 儿氏
こゝろあり
くるめり 二氏 こゝろあり　紙くの蔵てありと　ゑりと
なめり 紙くのうすハ紙にありしときり
とふこてるのとれつるふるあく

やうまさり　けりの字口傳の　せり
なりらん　かなし　なまなしく　しけりの二ケ反せうり
ぬる　ぬらし　てられて　らぬらいこと　いふとも宜し
ここにひく　けれどもとかく　なほいくらも持すまよ
つまくものく流ふへき縦右あり　杞
ま文乃つけ字は自他のお遠
る政のお差などをしふすあり退く
まるれハく　なん

右等テ乃事ハ今く愚見の拙
き作をつまにまうせて僻めけ
曲尺を世に配ゆるハあるべし是
又吉川方なんぞ文章に定め置せ
まじく見ゆるすべた尚又のぞく
さまをも飛ぶもの Pならしめ
此らひそ後の中の一方なう一をとる
就ひ待つしたうしこ誤のあら

むかし小子が罪ふことのまへなむ
人がきかのそしてこゝるもなりしき
まふゑるゝれけり

白梅園
鷺水

嗚呼乃悪曇とられ吮吸かん菊焼
に照し清見家持此云楽とけも
どり家遥定家のんとまさとり機根
かん筆ー代れつゝく上根乃自他てしよく
捷つゝ業なるみを採へてる株を定ぬれ、
う翁紫うかつらし

助叟跋

寳暦四年戌五月吉日校正

皇都書肆

中川茂兵衛
西村市郎右衛門
中村次郎兵衛
植村藤右衛門
藤澤三郎兵衛